

司 法 省 文 庫			
		和 書	門
		政 治 及 法 律 部	
		一 九 九 二 號	
共	冊	函	架

3 4 5 6 7 8 9 $\frac{4}{20}$ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 $\frac{4}{30}$ 1 2 3

版權所有





凡例

- 一 此編逐次刊行シタル數號ヲ集メテ一冊トナシ冊首ニ令目彙覽ヲ置キ以テ事類ニ就キ檢尋ニ便ス
- 一 編中每號指令ノ月日ヲ逐ヒ之ヲ編次シ伺ノ月日ニ拘セス
- 一 伺指令總テ全文ヲ載ス若シ節略スルキハ必ス其故ヲ註明ス
- 一 伺指令ノ民事事ニ關スル如キハ便ニ隨ヒ刑事部ニ編シ或ハ民事部ニ編ス閱者互ニ查考センヲ要ス
- 一 凡ソ伺其大意ヲ摘ミ前ニ掲ケ後ニ官署名以テ省ノ長官名宛指出スヲ常例トス今官署名ハ廳名ニ改メ概ソ某裁判所某縣等ト記シ掲クル所ノ大意ハ專ラ檢閱ニ

3900
P. 30
A. C. d

便スルヲ以テ必シモ原文ニ拘セス
 一凡ソ編次ノ際註記スルモノハ()ヲ加ヘ以テ原文ニ分
 ツ
 一自後刊行スル所數十號ニ至レハ集メテ一冊トナシ更
 ニ刊行スヘシ

3381

司法省指令録民事部令目彙覽 自第一號至第十七號

○民法類

貸借

〔第一〕期限ニ至リ不返辨ノ節ハ違約金ヲ可渡約定貸借處分ノ儀ニ付伺 丁一 京都裁判所

〔第七〕同居ノ父母子弟等死後其貸金ヲ戶主ヨリ取立及ヒ其負債ヲ戶主ヨリ償却ノ儀伺 丁十三 函館裁判所

〔第七十一〕他人ノ實印ヲ以證書ヲ偽造シ金圓ヲ借ルモノノ辨償方伺 丁百 東京裁判所

〔第七十三〕貸借上違約金請求ノ訴處分ノ儀伺 丁百三 仙臺裁判所

令目彙覽

B90U
 S I
 3 C

刑事賠償
違約

〔第三十五〕乘毀器物賠償違約詞訟ノ儀 伺 四十 丁

島根縣

証書

〔第六〕金穀等借用証書ヲ貸主ヨリ他へ讓渡節証書々

換ノ儀ニ付 伺 十一 丁 熊本縣

〔第廿八〕本年第九十九號公布前讓渡セシ金穀借用証書

モ書換サレハ其効ナキヤ 伺 三十 丁

高知縣

〔第三十四〕七年第廿七號公布中貸金同様云々ノ儀ニ付 伺

四十 丁 大分縣

〔第三十七〕貸主ヨリ讓受ケシ貸金穀証書第九十九號公布

ニ因リ書換ノ儀 伺 四十 丁 三重縣

〔第四十三〕縣下慣習ニテ貸借証書而利息記載方不都合有

之ニ付向後處分ノ儀 伺 五十 丁 濱田縣

請人証人 〔第三〕請人証人辨償規則ノ儀ニ付 伺 六十 丁 宮崎縣

質入書入 〔第三十六〕丁卯己前ノ質地貸借ニシテ質入書入規則第十六

條ニ反觸セシモノノ儀 伺 四十 丁

岩手縣

〔第五十五〕家屋ヲ質入書入トシ身代限ノ節其債主先取ノ

特權有無ノ儀 伺 七十 丁 京都裁判所

〔第五十六〕不動産書入與書割印ノ儀 伺 七十 丁

愛知縣

家祿抵當 〔第五十二〕家祿奉還願中賜金ヲ抵當ニシテ負債スル者ノ儀

ニ付 伺 六十 丁 香川縣

〔第五十三〕家祿奉還ノ儀ニ付石川縣同指令改正ノ儀金澤

裁判所ニ達書二丁十

〔第五十四〕同上ニ付松江裁判所ニ達書三丁十

地券書換〔第九十三〕死亡跡相續人期限後レ地券書換科金徴否ノ儀

ニ付伺九百三十

神奈川縣

証券界紙

〔第廿五〕証券ヲ他ノ負債又ハ品代滞金ニ代償流用スル

モノ貼用印紙ノ儀伺九丁十

鹿兒島裁判所

〔第九十七〕証券界紙ニ證書文印刷ノ儀ニ付伺八丁十

岡山縣

○訴訟法類

呼出〔第廿六〕華族被告トナリ呼出ス所病氣申立數回出頭セ

サルモノ處分ノ儀伺二丁十

京都裁判所

〔第六十三〕民事呼出ヲ受ケ遅不參ノ者罰金言渡ノ儀伺九

丁

東京裁判所

〔第六十六〕同上九丁十

新潟裁判所

〔第六十七〕同上九丁十

京都裁判所

〔第八十四〕民事呼出ノ日時他官廳ト相觸ル、并先後ノ儀

伺百廿

静岡裁判所

訴訟用封紙〔第廿九〕諸租税金怠納ヲ訴フル節封紙用ヒ方ノ儀伺三

丁五

東京府

〔第五十九〕喚出封紙代價假取立方ノ儀伺一丁十

松江裁判所

出訴期限〔第四十五〕出訴期限規則第四條ト六年第十號公布トノ疑

令目彙覽

代人代人

儀伺 六丁十

島根縣

〔第二〕委任狀記載方ノ儀ニ付伺 四 東京裁判所

〔第三〕代人規則ノ儀ニ付伺 六 宮崎縣

〔第五〕免許代人アルモ至親代訟ヲ得ルヤ伺 十 京都裁判所

〔第十二〕代言出願人落第再試験并舊藩律ニテ格祿追奪
追放ヲ受シ者代言出願ノ儀伺 二十 高知縣

〔第十三〕代言人寄留替ニ付免許狀書替ノ儀伺 廿一 京都府

〔第十四〕裁判所改稱ニ付代言人免許狀書換アルヘキヤ
伺 廿三 神奈川縣

〔第二十〕代言人轉地免許狀還納ニ付免許料下戻ノ儀伺
廿五 大坂府

〔第廿一〕縣廢合ニ付代言人免許狀更改ノ儀伺 廿六 山形縣

〔第廿四〕支廳代言出願ノモ有之節取扱方等伺 廿八 栃木縣

〔第三十〕地方裁判所ノ代言免許ノモ更ニ上等裁判所
ノ代言願出ノ節改メ試験ニ不及ヤ伺 三十 大坂府

〔第三十一〕地方裁判所改置ニ付代言人ヲ檢査スヘキ府縣
廳等ノ儀伺 三十 同府

〔第三十二〕代言免許狀書換ノ儀ニ付伺 三十 八丁

令目彙覽

靜岡縣

〔第三十三〕當省甲第十五號布達前代言人再試驗出願ノ者
試驗期月ノ儀 伺 三 重 縣 九 十 三 十

〔第三十九〕代言人部理委任ヲ受ケ出訴中事故アリ更ニ他
部理代人ヲ委任スルヲ得ヘキヤ 伺 二 十 五 十 同 縣

〔第四十二〕代言出願ノ者本管ヘ履歷照會往復遷延ニ付試
驗取計方 伺 七 十 五 十 宮 城 縣

〔第五十二〕詞訟代人ノ儀ニ付 伺 九 十 六 十 香 川 縣

〔第五十八〕訴答代言人等疾病事故アリ該人ヨリ更ニ他
ノ代言人ヘ委任ノ儀 伺 九 十 七 十 和 歌 山 縣

〔第六十〕免許代言人アルモ代人ヲ差出スヲ得ルヤ 伺 十 八

丁二

大坂上等裁判所

〔第六十五〕代言人規則ノ儀ニ付 伺 一 十 九 十 島 根 縣

〔第六十九〕代言免許狀交換ノ儀ニ付 伺 八 十 九 十 愛 媛 縣

〔第七十五〕至親無之者區戸長ノ証書ヲ以テ代人ヲ出ス儀
ノ 伺 百 七 十 廣 嶋 縣

〔第八十〕代言人ノ民事詞訟ニ疑問ヲ起シ上陳スルニ付
伺 百 四 十 東 京 府

〔第八十一〕同上 伺 百 十 九 十 東 京 府

〔第八十六〕明治十年當省甲第一號布達并明治九年當省甲
第四號雇人ノ儀ニ付 伺 八 十 百 廿 仙 臺 裁 判 所

〔第九十〕代言人法律ノ疑問ヲ起スニ付ヲノ 伺 百 三 十 四 十

令目彙覽

對區務所警察所詞訟

〔第三〕各區事務扱所又ハ行政警察屯所へ對スル詞訟ノ儀ニ付伺丁六 宮崎縣

對旅人詞訟

〔第四〕一時止宿ノ旅人ニ對スル訴訟受理不苦ヤ伺丁九 函館裁判所

對裁判官詞訟

〔第七十六〕裁判上ニ付裁判官ヲ相手取訴出ノ儀伺丁百九 東京裁判所

舊藩處分濟詞訟

〔第七十七〕舊藩々ニ於テ處分濟事件ノ出訴ハ四年十二月十九日以前トノニ有之何年已後ヲ指シタルヤ伺丁百一 宮城上等裁判所
〔第七十八〕舊藩々ニ於テ處分濟事件ノ出訴ハ行政司法ノ別ナシ御差圖ヲ要スルヤ伺丁百二

秋田縣

〔第七十九〕舊幕府ニ於テ處分濟ノ事件ヲ出訴スルヲ取扱方伺丁百三 三重縣

〔第八十七〕舊藩々ニ於テ處分濟ノ儀伺丁百九 和歌山縣

控訴上告

〔第十〕三重縣管下人民控訴受理ノ儀ニ付伺丁十九 東京上等裁判所

〔第四十六〕盜賊賠償等ノ處分不服ノ者上告ノ儀ニ付伺丁六 東京裁判所

〔第六十一〕代理人控訴上告ノ儀伺丁八十 同
〔第七十二〕控訴狀正副三本ヲ徴シ度伺丁百二

宮城上等裁判所

〔第八十三〕控訴期限中道路差支アルキ公証ヲ得ル等ノ手續ヲ定ムル建議二百廿
宮城上等裁判所
〔第九十二〕控訴上告手續箇條中ノ儀伺百三十
大 審 院

裁判諸雜規

〔第三十七〕貸主ヨリ讓受ケシ金穀証書ヲ以テ出訴審理中
第九十九號公布出ルコ因リ一時訴狀差下ケシ
儀ニ付伺六十四
三 重 縣

〔第六十八〕朝鮮國在勤管理官并清國駐留領事へ委任狀ノ
儀伺九十
東京上等裁判所

〔第七十四〕准判規程第十條立會裁判ノ儀伺百五
水 戸 裁 判 所

〔第八十四〕民事審理中警察官刑事吟味願ヲ訊糺スルヲ裁

判權ヲ侵ストナスコ付伺百廿

靜 岡 裁 判 所

〔第九十四〕目安糺ヲ廢スルノ建議二百四十

神 戶 裁 判 所

〔第九十六〕裁判執行ノ儀ニ付伺百四十

熊 谷 裁 判 所

勸 解 〔第八十五〕民事詞訟總テ一度勸解ヲ經由シ度伺百廿

金 澤 裁 判 所

〔第八十九〕同上二百三十

和 歌 山 縣

〔第九十一〕同上百三十

靜 岡 裁 判 所

訴訟入費〔第八〕訴訟入費償却規則第五條手當定限ノ儀ニ付伺

十六

岩 手 縣

〔第三十八〕初審直者ニシテ終審曲者トナリ初審曲者ニシ

テ終審直者トナリ終審直者ニシテ上告曲者トナル如キ訴訟入費償却方伺九十四丁

筑摩縣

〔第五十七〕訴訟ニ關スル測量費等償却方ノ儀伺八十七丁

宮城上等裁判所

〔第八十二〕明治九年當省第一號布達中本人並ニ相手方ノ爲ニ延期ヨリ生スル費用償ヒ方ノ儀伺百廿一丁

大審院

身代限

〔第九〕退隱セシ前戸主ノ名前コテ未タ讓與ヲ行ハサル地券ハ戸主身代限處分外ノモノタルヤ伺七十七丁

敦賀縣

〔第四十〕身代限財産取調ノ節保証人立會ノ儀上申三十五丁

名古屋裁判所

〔第四十一〕身代限處分ノ節區入費取立方ノ儀伺五十五丁

島根縣

〔第四十四〕身代限處分ノ節納期限不至税金モ第一引去ル可キ儀ニ付伺六十一丁

敦賀縣

〔第四十五〕負債主數名連署中ノ一人身代限ニ違フハ債主分散金請求ノ儀ニ付伺六十三丁

島根縣

〔第五十五〕家屋ヲ質入書入トシ身代限ノ節其債主先取ノ特權有無ノ儀伺三十七丁

京都裁判所

〔第六十二〕身代限羅賣金ヲ私借セシ掛官吏病死ニ付處分方伺八十六丁

愛媛縣

〔第六十四〕身代限ノ際金祿公債証書ハ抵償トシテ差押ヘ

令目彙覽

第六十四 薩ルヤ同 九十 青森縣

〔第八十八〕身代限羅賣金ヲ官吏受取、各債主へ下渡サ、
該官吏死去シタル儀ニ付再伺 二百三十

愛媛縣

〔第一百〕戶主身代限ノ節同籍ノ隠居若ハ子弟等所有

新潟縣

〔第四十七〕七尾輪島ニ區裁判所設置ノ儀伺 六十

金澤縣

〔第六十六〕民事呼出ヲ受遲不參ノ者處決表へ掲載ノ儀伺

新潟縣

〔第六十七〕同上 九十

京都府

〔第九十五〕訟獄審理表ノ儀伺 百四十

東京府

〔第九十八〕同上 百四十

松本府

〔第九十九〕同上 百五十

静岡府

司法省指令録民事部

○第一號

十月十一日
指令

〔第一期限ニ至リ不返辨ノ節ハ違約金ヲ可渡約定貸借處
分ノ儀ニ付伺〕 京都裁判所

第一條 七年司法省日誌第七十六號島根縣ヨリ金穀貸
借上期限ニ至リ若シ返辨セサレハ假令ハ金百圓ニ付一
日拾圓宛ノ違約金ヲ副へ返辨スヘシトノ証書差入置云
々之伺ニ法律ニ背カサル約定ハ証書通り裁判致ス可キ
事ト御指令アリ又七年日誌第六十五號山形縣ヨリ米金
貸借上人民相互ニ約束ノ堅固ナラシメ爲メ証書面利子ノ
外ニ何程ノ罰金又ハ償金差出ス可キ等ノ明文ヲ掲ケ條
約ヲナセシ証券ハ罰金償金共取揚及裁判可然哉ノ伺ニ

伺之通ト御指令アリ然レハ假令ハ元金拾圓ニシテ一日
毎ニ二倍増ノ四拾圓トナルノ類ニ違約金ヲ契約シ纒ニ
二十五日ニシテ一億以上ノ金額ニ至ルノ類ハ爲スチ得
ヘカラサル契約ニ似タリト雖モ之ヲ法律ニ背カサル約
定ト爲スヘキヤ如何相心得可然哉

第二條 七年司法省日誌第七十九號敦賀縣へ人民ノ財
産器械等ヲ没入スルハ政權ニ屬シ人民相互ノ約定上ヨ
リ成ルヘキ事ニ非ス然ルヲ政府ノ許可チモ經サル約定
ヨリシテ器械財産没入ノ約ヲ爲セシハ爲スチ得ヘカラ
サルノ事ニ付訴屬ヒタル上ハ其約ヲ遂ケシメサル様
處分可及事ト御指令アリ是レニ由テ推考スレハ罰金及
ヒ科料金ノ約定ハ政權ニ屬スルニ似タリト雖モ第一條

山形縣伺ニ依レハ亦法律ニ背カサル契約ト看做ス可キ
ヤ如何相心得可然哉
右相伺候也

〔指令〕九年十月 伺之趣償金ハ損失ノ點アルニ原キ若シ損
失ト相ヒ干サス又ハ之レニ超過スル者アラハ原因ナ
キノ償金ト謂ツ可キナリ抑モ原因ナキノ義務ハ負擔
ノ限リニ在ラサルハ一般ノ法理ナルヲ以テ無原因ノ
償金ハ賠償ノ義務無之故ニ証書面何程ノ償金或ハ違
約金ヲ差出ス可ク等ノ明文ヲ掲ケ約定スルモノト雖
モ詳ラカニ損害ノ事實ヲ取糾シ若シ得可キ利益ト失
フタル損害之レナキ時ハ該條約ハ取揚シベカラザル

事

但シ罰金ト掲ケアルモ其事實果シテ償金ニ非ズシ
 テ罰責ノ科金ナラシメハ人民相互ニ罰金ヲ課スル
 ノ理由無之ニ付素ヨリ取揚クベカラサル事
 且ツ本文ノ理由ニ依ツテ明治七年中當省ヨリ山形
 縣ヘノ指令ハ取消候事

十月十二日
 指令

〔第二〕委任狀記載方ノ儀ニ付伺

東京裁判所

人民名代人ヲ以テ契約取引等致候儀ニ付六年第二百拾
 五號ヲ以テ公布相成候以來本人代人ノ間委任狀記載之
 不充分ナルヨリ種々之弊害相生苦情不少候例ヘハ本人
 要用有之ニ付代人ヲ以テ貸金催促セシムルノ際無頼ノ
 代人等竊ニ借主ニ馴合ヒ幾分之金ヲ領収シ自己ノ費用
 ニ充テ殘金ハ月賦又ハ年賦又ハ用捨引棄等之新約ヲ結

ビ本人ハ大ニ最初之意望ニ違ヘ共尋常之人民知人之明
 ニ乏キト委任狀普通書法之粗漏ナルヨリ如何トモスル
 ナキノ始末ニ及フ者間々有之加之訴答文例中與書之式
 モ勝手ニ任セシ上ハ猶更委任狀之權限區分肝要ニ相成
 候就而ハ委任ノ廉々細密ニ委任狀中ニ記載シ例ヘハ金
 促等ノ委任狀ナレハ利足用捨又ハ本高幾分迄用捨又ハ
 延期割濟云々ノ廉ヲ本文ニ記載スルカ或ハ別紙ニシテ
 與ヘ置クモ代理人ニ於テモ十分熟議之上委任狀可受取候
 苦シカラス代
 樣御布達有之度此旨相伺候也

〔指令〕九年十月 明治六年第二百十五號公布ハ本人不得止
 十二月 日
 ノ事故アリテ代人ヲ可用時ノ規則ヲ定メラレタルモ
 ノニテ委任狀記載ノ不充分ナルヨリシテ書面申出ノ
 如キ事實有之モノハ必スシモ委任狀ニ拘泥セス情理

第一號 九年十月

ニヨリ曲直ヲ推糺シ直者ノ權利ヲ伸張セシムヘキ様
裁判可致尤記載ノ充分ヲ要スルハ可然義ニ付尙可及
詮議事

十月十四日
指令

〔第三〕各區事務扱所又ハ行政警察屯所ヘ對スル訴訟並代
言人規則及ヒ請人証人辨償規則ノ儀ニ付伺〕

宮崎縣

第一條 明治八年御省甲第五號布達各人民ヨリ院省使
府縣等ニ對スル訴訟ハ當分各上等裁判所ニ於テ受理ス
ト有之候ニ付テハ假令ハ人民ヨリ該縣各區事務扱所又
ハ行政警察屯所ヘ對シ區戶長及巡查ノ處分不服ヲ訴フ
ル時ハ事務扱所并ニ屯所ハ縣廳ト一体ニ見做シ右布達
ノ通各上等裁判所ヘ出訴致ス儀ニ可有之哉又ハ事務扱

所及ビ屯所ヘ對スルト區戶長或ハ巡查ヲ相手取ル私事ニア
ラトノ區別ヲ以テ該縣裁判所ニ於テ受理不受理ノ差別
有之候哉

第二條 代言人タラント欲スル者一度地方官ノ檢査ヲ
受ケ御省ヘ開申ノ上代言人ノ許可ヲ得タル者一ケ年滿
期ノ後尙代言人タラント願出ル時ハ再ヒ檢査ニ及ハ
ス本人願書ニ縣ヨリ初度檢査濟ノ者タル譯添書ヲ以テ
御省ヘ進達致シ然ル可ク哉

第三條 右代言人規則第一條凡ソ代言人タラントスル
者ハ云々所管地方官ノ檢査ヲ乞フヘシト有之右所管ノ
儀ハ願人ノ本管ヲ限ルニ非スシテ代言人タラント欲ス
ル裁判所ノ所管地方官ヲ兼タル儀ト相心得可然乎

第一號 九年十月

第四條 明治八年第百二號公布改正金穀貸借請人証人辨償規則第一二條本人身代限濟方申付候上不足相立或借主逃亡又ハ死去跡相續人無之時ト雖モ債主ヨリ受証人ニ對シテ請求ノ追訴ヲナサ、レハ辨濟申付ルモ不及哉尤出訴以前借主失踪シテ行衛不相分節ハ明治八年第六號公布ノ通三十六ヶ月ノ滿期後再訴ノ上處分ニ及ヒ若シ逃亡顯証アル者ハ直ニ規則第二條ノ通處置シ可然哉

右相伺候也

〔指令〕九年十月 第一條 各區事務扱所又ハ行政警察屯所ハ縣廳ト一體ニ見做ス可ク其區戶長或ハ巡查ニ對スル者ト雖モ職務上ニ關スル筋ナラハ上件ノ通可心得

事

第二條第三條第四條 伺之通

○第二號

十一月六日 指令

〔第四〕一時止宿ノ旅人ニ對スル訴訟受理不苦ヤ伺

函館裁判所

從來管内住居之者ヨリ寄留届濟ニアラサル一時止宿ノ旅人ニ對スル訴訟ハ採上ケサル習慣ニ有之右ハ該住居ヲ定メタル地ノ裁判所ニ訴へ出スヘキ主意ニ可有之然ルニ准判規程第十四條管内滯留スル兩個ノ旅人紛議ヲ起シ云々其裁判ヲ請フキハ前條ノ如シト有之即チ被告

第二號 九年十一月

ハ均シク旅人ニシテ原告旅人ナルキハ之ヲ准理シ旅人
ニアラサルキハ准理セサル自ラ權衡如何ヲ覺ユ右習慣
ニ拘ワラス受理致シ度御成規上抵觸ノ儀モ無之哉相同
候也

但シ右ニ付御成規有之候ハ、仰御明示度此段併セ相
伺候也

〔指令〕九年十一月十一日 受理不苦事

但書本文ノ次第ニ付別段成文律ハ無之事

〔第五〕免許代言人アルモ至親等代訟ヲ得ルヤ伺

京都裁判所

司法省本年甲第一號布達但書ニ四月一日以後代言人無
之且本人疾病事故ニテ不得止場合 中略 其至親ノ内之ニ

代ルヲ得ヘク云々トアリ右ハ既ニ免許代言人アル地方
ト雖モ若其訴訟ノ本人疾病又ハ不得止事故アル場合ニ
於テハ右但書且云々以下ノ次第ニ從ヒ至親ノ者等仍ホ
代訟ヲナス事ヲ得ヘキ乎將タ右ノ但書ハ止タ其免許代
言人アラサル地方ニ限リ候儀ニテ其既ニ免許代言人ア
ル上ハ但書且云々以下ノ者ト雖モ至親及ヒ知人ヲ以テ
代訟ヲ爲サシムルコト一切不相成儀ニ候哉此段奉伺候也
〔指令〕九年十一月十一日 免許代言人アリトモ人少等ニテ事實差支
ル時ハ至親ノ者若シクハ規則ニ從ヒ相當ノ代人ヲ差
出シ苦シカラサル事

〔第六〕金穀等借用証書ヲ貸主ヨリ他ニ讓渡節証書々換ノ

儀ニ付伺

熊本縣

金穀等借用証書ヲ其貸主ヨリ他人ニ讓渡ス時ハ其借主ニ証書ヲ書換ヘシムベシ若シ之ヲ書換ヘシメサルニ於テ貸主ノ讓渡証書有之ハ仍ホ讓渡ノ効ナキ旨本年第十九號ヲ以テ公布有之右ハ金穀等借用証書ニ限リ其他ノ物品借用証書並ニ金穀及物品預ケ証書ヲ他人ニ讓渡ス節ハ証書改正ニ及ハサル儀ニ有之然ルニ物品借用並ニ金穀及物品預ケ証書ヲ他人ニ讓渡スモ其權衡均シカルヘキニ一ハ改正シ餘ハ改正ニ及ハサルハ如何ノ御趣意ニ可有之哉疑惑致シ候條此段相同候也

〔指令〕九年十一月十六日 借用証書ト純粹ノ預リ証書 明治七年第二十七號布告ニ依ル

ハ自カラ其ノ性質ヲ異ニスルモノナレハ素ヨリ同視スベカラス且ツ該公布中既ニ等ノ文字アレハ物

品ノ借用証書ハ其中ニ含蓄シタル義ト相心得可シ

但明治七年第廿七號布告ニ因リ貸金同様ノ處分ニ歸ス可キ預リ証書ノ分ハ書換ヲナス可キ事

〔第七〕同居ノ父母子弟等死後其貸金ヲ戶主ヨリ取立及ヒ其負債ヲ戶主ヨリ償却ノ儀伺 函館裁判所

第一條 愛知縣同 本省日誌明治七年ニ父兄ト同居ノ子弟

自分一己ニテ金銀ヲ他人ニ貸付置其後死亡致シ子弟

ノ跡相續人之レナキモノ生前所持ノ品物ハ父兄ニ合併

致スヘキ筋ニ付父兄ニ讓リタル添証文之レナク共右貸

付金ノ証文ヲ以テ父兄ヨリ訴出候テ可然哉云々御指令

ニ前略 戶籍中子弟名宛ノ証書ヲ以テ其戶主タル父兄ヨ

リ訴出ル分ハ採上ケ裁判ニ可及ト有之右御指令ヲ援引

定規トナス儀ニハ無之候得共以後同様ノ事件ハ御指令ノ通相心得可然哉

第二條 果シテ伺ノ通ニ候得ハ右御指令ノ意ヲ擴充致シ同居セル父母隠居シ及伯叔父母相續人ノ如キ自分一己ニテ金銀ヲ他エ貸付置其後死亡致シ候節ハ右遺留セル証文ヲ以テ戸主ヨリ訴出候得ハ前條同一ノ理ニ付取上ケ裁判致シ可然哉

第三條 然ルニ前條ニ相反シ前書ノ如キ同居ノ父母伯叔父母又ハ同居ノ子弟相續人他ニ自分一己ノ負債ヲナシ其後死亡致スニヨリ債主ヨリ其戸主エ掛リ返辨請求ノ訴ハ可取上筋無之ト存候得共若シ其死亡セシ者遺セル財産ヲ債主ニ於テ判然見認メ其財産ヲ以テ償却方ヲ

戸主ニ請求スル分ニ限り取上ケ裁判及ヒ可然哉

第四條 果シテ然ラハ戸主ニ於テ右等ノ貸金ハ取立ルノ權利アリト雖モ返金ノ義務無之候然ルニ死亡セル者ノ貸金証書ヲ以テ戸主ヨリ負債主ニ請求ノ訴ヲナスニ負債主モ亦死亡セル者ニ貸金ノ証書アリ差引センコトヲ求ムルトモ二個ノ義務互ニ相殺スル理モ無之哉

此段相伺候也

〔指令〕 九月十一日 第一條第二條 伺之通

第三條 戸主タル父兄ニシテ死亡シタル子弟ノ遺財ヲ既ニ領取スル時ハ債主ニ對シテ其ノ負債ヲ辨還スルノ義務アル者ナレハ死亡者ノ遺産タル事判然タル者ニシテ戸主之レヲ所領スルヲ見認メ其ノ負債ヲ償

却セシコトヲ戸主ニ對シテ請求スル者ハ素ヨリ受理
及フ可キ事

第四條 差引可爲致事

○第三號

〔第八〕訴訟入費償却規則第五條手當定限ノ儀ニ付伺〕

岩 手 縣

訴訟入費償却規則第五條手當ノ定限ハ第二條ニ同シト
アリ其餘ニ依ルニ裁判所ニ出席ヲ爲シタル日ト云フハ
新訴ヲ進達スル爲メ出頭スル日モ其定限中ニ在ルカ又
一人ニシテ他ノ一人ニ係ルト雖モ一ハ地論ニシテ一ハ

貸金ナレハ其件數異ナルヲ以テ兩度出席スル者ト同シ
ク手當金壹圓ヲ得ルカ又其訴狀異ニシテ各人ニ係ルモ
ハ其訴フル所ノ件數ニ應シ五件ヲ訴フレハ手當金貳圓
五拾錢ヲ得ルノ儀カ

右御指令奉仰候也

〔指令〕九年十一月十一日新訴進達ノ爲メ出頭ヲナセシ日ハ固リ定
限中ニ在ル可シ且又一人ヨリ一人或ハ數人ニ係ルト
雖モ其件數異ナル者ハ各人ニ係ル者ト同様可心得事

○第四號

十一月六日
指令

〔第九〕退隱セシ前戸主ノ名前ニテ未タ讓與ヲ行ハサル地

十七

第四號 九年十一月

券ハ戸主身代限處分外ノモノタルヤ同〔九年六月十六日〕

敦賀縣指令ハ石川縣へ付ス

凡ソ戸主タルモノ身代限處分ヲ受ルトキハ其家族中財產ヲ分有スルト否トヲ問ハス別段差定メタル規則アルモノヲ除ク之外悉皆右處分ニ預ルヘキハ勿論ニ候得共公正之証書アル地券ノ如キモノ事故有之退隱セル前戸主ノ名前ニシテ未タ讓與ヲ行ハス其地租區入費等ノ土地ヨリ生ル義務ノ如キモ前戸主ノ名前ニテ行ヒ居ルモノハ他ノ分有之區別難相立動産ノ類ト異ナルヲ以テ右戸主身代限處分外ノ者ト相心得可然哉此段御伺申上候以上

〔指令〕九年十一月十六日 伺之通

十一月廿日 指令

但シ事實詐偽ノ所業アル者ハ此ノ限ニ在ラス

〔第十〕三重縣管下人民控訴受理ノ儀ニ付伺〔九年十一月十八日〕

東京上等裁判所

本年九月十四日付ヲ以テ三重縣管下人民控訴之義ハ追テ御達相成候迄從前之通大坂上等裁判所於テ受理致シ候儀ト相心得可然哉之旨本省丁第二號御達之趣ニ依リ相伺候處伺之通トノ御指令有之然ル處今般本省達第七拾八號ヲ以テ名古屋裁判所開應之旨御達相成候ニ付テハ三重縣管下人民控訴之儀自今當裁判所於テ受理可致儀ニ候哉又ハ別段御達可有之哉此段相伺候至急御指揮有之度候也

〔指令〕九年十一月二十日 伺之趣其裁判所ニ於テ受理可致事

第四號 九年十一月

但別段達シニ不及事

〔第十一〕代出願人落第試驗再願ノ儀ニ付伺〔九年八月八日之〕

敦賀縣

〔指令〕九年十一月廿四日〔署〕

神奈川縣東京府愛知縣大坂府秋田縣新潟縣三重縣各同

儀ニ付伺出該日總テ

十一月二十四日指令

〔第十二〕同上并舊藩律ニテ格祿追奪追放ヲ受シ者代出

願ノ儀伺〔九年九月六日〕

高知縣

第一條 代出願人之内試驗上失當之廉有之願書却下候者再ヒ同斷願立候節其都度試驗致シ候テハ自然際限無之且ツ試驗効驗ヲ失ヒ候儀ニ付右等落第之者ハ再願之期限等預テ御取定メ相成リ可有之儀ニ候哉

第二條 右同斷之内舊藩律ニ依リ格祿追奪之上追放今現

ノ法律ニ擬スレハ即チ除族ノ上ノ刑ヲ受ル者ト雖モ其懲役一年以上ノ刑ニ相當致候者ト雖モ其後品行不良ノ儀モ無之全ク悔悟ノ實跡相顯候者ハ乞願ノ權利有之候儀ト相心得可然哉

但大赦前後或ハ舊惡減免例ノ期限等ニ依リ許スト否ノ區別有之候儀ニ候哉

右至急御指令相成リ度此段相伺候也

〔指令〕九年十一月廿四日第一條 書面落第ノ者ハ當省本年甲第十

五號布達之通心得ヘシ

第二條 伺之通

但書大赦前處分ヲ受シモノニテ爾來悔悟實跡アルモノハ採用スヘシ此他規則第三條ノ通心得ヘシ

〔第十三〕代出願人寄留替ニ付免許狀書換ノ儀伺〔九年九月二十二日〕

府下代言出願人國枝穀始メ五名之者免許狀本月十三日
 附御廻シ相成候ニ付夫々下附方可取計之所右之内清水
 石光義ハ府下上京第廿五區柳六丁目第二百四十六番地
 へ寄留替致居候趣ニテ別紙之通申出候ニ付免狀下付方
 相見合セ一ト先返上致シ候條肩書御書替之上更ニ御渡
 可相成手此段相伺候且以後代言免許狀所持之者轉居イ
 タシ候節ハ本人ヨリ其段當府并ニ裁判所へ爲相届免狀
 ハ當分其儘ニテ營業爲致置新住所肩書ノ免狀御渡方申
 出御廻シ相成候上引換返納ノ運ヒニ取計可然哉併テ相
 伺候候也

又 九年十月

府下代言出願人清水石光寄留替致シ居候ニ付免許狀御
 書替之義客月二十二日附當府市第四百九十九號ヲ以相
 伺候候所尙又本人ヨリ別紙(之略)之通伺出候條至急免狀御
 書替御下附相成候様イタシ度此段再應相伺候也

〔指令〕九年十一月廿四日 伺之趣書換下渡候事

但免許狀書式ハ改正候事且去九月中四百九十九號
 伺之趣ハ當省甲第十六號布達之通可相心得事

〔第十四〕裁判所改稱ニ付代言人免許狀書換アルヘキヤ伺

九年九月
 二十三日

神奈川縣

當縣第壹大區壹小區橫濱住吉町壹丁目元鈴村要造店當
 時橫濱万代町二丁目六百二十号地轉居和歌山縣平民植
 木綱二郎儀先般神奈川裁判所代言願出檢査上申候所御

採用免許狀御下渡相成然、所本月十三日太政官第百拾四號公布ニ神奈川裁判所ハ横濱裁判所ト更稱相成候ニ付而者右免許狀者交換御渡相成候儀ニ候哉果シテ然ラハ書替御下ク渡有之度此段相伺候也

〔指令〕九月廿四日 伺之趣書換下渡候事

但從前免許狀同時返納可爲致尤免許狀書式ハ改正候事

〔第十五〕縣廢合ニ付代言人免許狀更改ノ儀、並舊縣審理中ノ事件繼續代言ノ儀等伺〔十九年九月二十七日〕之〔零〕

滋賀縣

〔指令〕九月廿四日 之〔略〕

〔第十六〕縣廢合ニ付代言人免許狀更改ノ儀伺〔十九年十月十八日〕之〔零〕

石川縣

〔指令〕九月廿四日 之〔略〕

〔第十七〕全上 十九年十月 之〔零〕

高知縣

〔指令〕九月廿四日 之〔零〕

〔第十八〕地方裁判所改置ニ付代言人住居、并免許期限通算

方等伺〔十九年十月十三日〕之〔零〕 宮城縣

〔指令〕九月廿四日 之〔略〕

〔第十九〕同上 十九年十月 之〔零〕

岡山縣

〔指令〕九月廿四日 之〔略〕

〔第二十〕代言人轉地免許狀還納ニ付免許料下戻ノ儀伺〔十九年十月十五日〕

十五日 大坂府

府下代言人滋賀縣士族安藤貞儀代言職轉地之儀ニ付去

月九日第二千廿三號付ヲ以相伺候處則本月五日云々御
指令相成候ニ付テハ已ニ與ヘタル免許狀還納セシメ候
上ハ曩ニ上納シタル免許料ハ直チニ本人へ下戻ル可申
ハ至當之儀ト被相考候得共右等ノ儀ハ御省代言規則中
ニモ適例無之付此段相伺候條至急何分ノ御指揮被下度
候也

〔指令〕九年十一月廿四日 免許狀ハ還納セシムルモ免許料ハ還付セ
サル儀ト心得ヘシ

〔第二十一〕縣廢合ニ付代言人免許狀更改ノ儀伺〕廿六日

山形縣

當縣士族

藏田好水

青柳四郎

右者元置賜縣所轄ノ節別紙寫之通代言免狀御下渡相成
居候所今般同縣廢セラレ當縣へ合併候ニ付最前御下渡
之免狀ヲ以テ直ニ當縣ニ於テ代言爲致不苦儀ニ可有之
哉又ハ御書替更ニ御下渡可相成哉之趣本年九月五日附
テ以相伺置候所〔略〕今ニ御指令無之事實差支候儀モ有之
ニ付至急御指令相成度此段猶相伺候也

〔指令〕九年十一月廿四日 伺之趣書換下渡候事

但從前免許狀同時返納可爲致尤免許狀書式ハ改正
候事

〔第廿二〕同上〕九年十一月十日〔略〕

〔指令〕九年十一月廿四日〔略〕

滋賀縣

〔第廿三〕代言出願ノ者品行不正ト見認ル節取扱方伺〔九年十一月〕

京 都 府

日 月 九 零 之

〔指令〕九年十一月十四日之略

〔第廿四〕支廳代言出願ノモノ有之節取扱方等伺〔九年十一月〕

椽 木 縣

今般當縣下椽木町へ水戸裁判所支廳設置候ニ付右支廳ヲ指シ代言之職相行度旨願出候者有之節ハ椽ヲ御布達有之代言人規則ニ據リ取扱可然哉

右支廳へ指シ相願候者ト云ヒ御免許之上ハ其區裁判所ハ勿論本廳共遠近ニ不拘代言ヲ爲スヲ得可申哉

右至急御指令有之度此段相伺候也

〔指令〕九年十一月十四日同之趣當省本年甲第三號但書改正之通可

心得事

十一月二十五日指令

〔第廿五〕証券ヲ他ノ負債又ハ品代滞金ニ代償流用スルモノ貼用印紙ノ儀伺〔九年八月九日〕 鹿兒嶋裁判所

證券印紙規則中公債證書類讓與証書ハ第一類ニ付其類ヲ推シ米金貸付証書ヲ他人へ讓リ渡スノ添証書ハ固ヨリ第一類部中ノモノト相心得居候所司法省日誌明治九年第五號白川縣伺ノ指令ニ証券ヲ他ノ負債又ハ品代滞金ニ代償流用スルハ第二類ノ印紙ヲ貼用スヘシト有之其伺書ヲ按スルニ一ハ則愛知縣伺ノ中ニ讓與トハ無代價ノ者ニテ假令証書中讓ノ文字有之候共多少代償取極有之分ハ素ヨリ賣渡ニ付第二類印紙貼用爲致候ヲ可然哉ニ伺之通ト御指令アルヲ援キ一ハ則福岡縣伺公債証

書及米金貸附証券所持ノ者之ヲ他ノ負債ヘ流用償還スルキ其讓渡証券ハ何類ニ可屬哉ニ第一類印紙貼用可致ト御指令有之ニ據リ既ニ流用償還スト云ヘハ多少金圓ノ代ニ償還スルモノニシテ無代價トハ爲シ難キヲ以テ愛知縣福岡縣ノ御指令前後齟齬スルノ條理辨明ヲ乞ヒシモノナリ然ルニ讓與賣買ノ區分ヲ明示セラレズ汎然証券ヲ他ノ負債又ハ品代滯金ニ代償流用スルハ第二類ト御指令アリシハ何ノ理由ナルヤ御趣意ノ在ル處聊了解致シ兼候抑公債証券ノ如キ既ニ賣買ヲ明許セラレタルモノト雖モ証券上讓渡ストアレハ其意思惠或ハ代償流用ニ在ルヤ否ニ論ナク此ノ權利ヲ彼レニ與フルモノニシテ賣買ニハ非ラサルヘシ況ンヤ米金貸附証券ハ賣

買ヲ許サル、ノ成文律ナキヲ以テ之ヲ觀レハ蓋シ兩個ノ契約ニ成ルモノニシテ一般賣買流用ノ性質ヲ有スルモノニ非ラス故ニ米金返濟ノ義務ヲ得ヘキ權利アルモノ之ヲ他ニ移スルハ讓ルト謂フ可シテ賣ルト云フ可カラズ此ノ理由アルヲ以テ其實多少金圓ノ代ニ授受スルト雖之ヲ分析スレハ自ラ負フタル義務ヲ免ル、爲ニ己ン有スル所ノ權利ヲ人ニ與フルモノナリ然ラハ則彼此ノ間既ニコレヲ讓リ受ルト稱シ証券上亦之ヲ讓與ト記載シ他モ亦認メテ權利ノ授受ト爲スカ如キハ何ニ由テ賣買ノ文字ヲ見出シ可申哉果シテ賣買ノ確証ヲ見認ムル能ハサルキハ米金貸附証券讓與ハ其意何ニ在ルヲ問フニ及ハス証券印紙規則第二則第一類ノ成文ヲ執ル

ノ外無之手ニ相心得候若シ尙白川縣同指令ノ通相心得可申事ナラハ讓與賣買ノ區分及ヒ公債証書米金貸附証券ノ異同等詳細御指令相成リ度此段相伺候也

〔指令〕九年十一月廿五日 証券印紙規則中第一類ニ掲ケタル讓與証

書トハ即チ恩惠ノ讓與ニシテ証券ヲ他ノ負債等ニ代償流用スル者トハ全ク別ナリトス故ニ証書中假令讓與ノ文字之レアルモ事實他ノ負債等ニ流用償還スル者ハ自然賣買ノ性質ヲ有シタル者ニ付第二類中ニ屬ス可キ義ト可相心得事

但本文ノ理由ナルニ因リ最前福岡縣ヘノ指令ハ取消候事

十一月二十八日指令

〔第廿六〕華族被告トナリ呼出ス所病氣申立數回出頭セサ

ルモノ處分ノ儀伺 九年九月二十九日

京都裁判所

華族ニシテ民事ノ訴訟ヲ受ル者本人病氣等ニテ代人差出夫々解訟ノ處分ニ及フハ素ヨリ差支無之候得共間ニハ代人ニテハ該件審理ニ難及事故之レアリ然ルキハ容體書ヲ出サシメ快復ノ上本人出頭ヲ命シ請書ヲ徴シ若干ノ猶預ヲ與ヘ置リ處其期ニ至リ猶亦病氣ヲ申立出頭セサルコト數回依之該件既ニ數月ノ久シキヲ經ルモ未ダ歸結スルニ至ラスシテ實ニ原告ノ難澁ハ言語ニ絶セリ如此場合ニ於テハ其己ニ懸醫ノ容體書アリト雖モ仍ホ檢事ニ通知シ其筋ノ醫員ヲ引カシメ一應該家ニ就テ診斷セシムル等ノ處置致シ可然哉此段相伺候也

〔指令〕九年十一月廿八日 同ノ趣ハ難聞届但被告本人吟味ノ必要ナ

第四號 九年十一月

ル場合ニ於テハ裁判官ノ見込ヲ以テ豫メ其吟味ヲ爲
ス可キ次第ヲ通知シ被告本人ノ病瘳ニ蒞ミ吟味ヲ爲
スモ不苦事

〔第二十七〕外國關係民事上呼出シタル証人旅費日當賜給

ノ儀伺〔九月十日之略〕

横濱裁判所

〔指令〕九月十一日之略

〔第二十八〕本年第九十九號公布前讓渡セシ金穀借用証書

モ書換サレハ其効ナキヤ伺〔九月十日高知縣〕

明治九年七月第九拾九號公布之趣ハ該公布以前ニ於テ
金穀等借用証書ヲ其貸主ヨリ他人ニ讓渡ス分トイヘヒ
其借主ニ証書ヲ書換ヘシメサルニ於テハ貸主ノ讓渡証
書有之ヒ仍ホ讓渡ノ効無之モノト爲スヘキ儀ニ候哉何

分ノ御指圖被成下度此段相伺候也

〔指令〕九月廿八日該公布周知ノ后ニ契約ヲナシタル讓渡

シ証書ニシテ書換ヲナサ、ル者ハ裁判上讓渡ノ効ナ

キ者ト可相心得事

〔第二十九〕諸租税金怠納ヲ訴フル節郵紙用ヒ方ノ儀伺〔九

十二月六日
指令

十一月
廿七日

東京府

百般之租税金各人民ニオイテ及怠納候節ハ成則ニ照シ
各裁判官ニ回送及候節尋常界紙ニ相認可然哉ニ存候得
共爲念一應相伺候間至急御指揮相成度候也

〔指令〕九月十二日租税ノ怠納ヲ訴フル者モ相當ノ郵紙ヲ可用事

○第五號

十二月一日

〔第三十〕地方裁判所ノ代言免許ノモ更ニ上等裁判所ノ
代言願出ノ節改メ試験ニ不及ヤ同〔九年十月二十七日〕

大坂府

府下代言人京都府士族石黒涵一郎ヨリ別紙〔零〕之通常地
上等裁判所ニ於テ代言職相行度旨願出候處右同人儀ハ
最前試験相濟當地裁判所代言御免許相成候者ニ有之候
ニ付テハ右代言職願出候ヲモ今般更ニ試験不致而可然
歟ト被相考候果シテ然者右免許狀御下附相成度此段御
伺旁上申及ヒ候也

〔指令〕九年十二月一日 書面石黒涵一郎願ノ通代言免許狀下付候
事

但免許料ハ最前達之通心得ヘキ事

十二月五日

〔第三十一〕地方裁判所改置ニ付代言人ヲ検査スヘキ府縣

應等ノ儀同〔九年十一月十五日〕

大坂府

先般第百拾號ヲ以府縣裁判所改置分轄云々公布相成候
ニ付テハ警ハ大坂裁判所分轄之内堺和歌山兩縣下ニテ
代言職取行度旨願出ル者有之ニ於テハ當府ニテ検査可
致者歟又ハ各該縣ニ於テ検査スル者歟且又從前該縣ニ
テ既ニ免許狀ヲ得タル者此度當府下ニテ代言スルモ妨
ケナキ者トスルヤ又ハ於當府更ニ検査ヲ經免許狀書換
候上ニ無之テハ不相成儀ニ有之候哉又ハ検査ヲ要セス
免許狀書換可相成儀歟右ニ準據候内指當リ願出候者モ
有之候付此段相伺候條何分之御差圖至急有之度候也

〔指令〕九月五日 伺之趣本年當省甲第三號布達但書後半之
通心得へシ

但シ試験ハ各々其地方廳ニ於テ検査スルモノト必
得へシ

〔第三十二〕代言免許狀書換ノ儀ニ付伺〔九月十一日〕
月二十日

靜岡縣

當縣管下駿河國第四大區四小區有渡郡古庄村平民前島
豐太郎儀東京裁判所於テ代言免許狀御渡相成居候處此
程歸縣靜岡裁判所於テ代言營業致度旨ヲ以免許狀書換
之儀願出候間其段本年十月中上申仕候處具申之趣難聞
届右免許狀者東京府へ還付該裁判所へモ相届更ニ其縣
へ出願スル儀ト可心得旨同月廿七日御指令ニ付其段相

達候處其後甲第十六號御布達ニ基キ尙別紙（之略）之通申出
候右者本貫轉籍並寄留之者歸縣候節者都テ先般御指令
之通心得姓名ヲ改メ候節ニ限リ書換相願候儀ト存候得
共前號御布達初ケ條免許狀返納之儀無之ニ付決兼候間
爲念此段相伺候也

〔指令〕九月五日 當省本年甲第十六號布達中免許狀書換ノ
儀ハ代言人本貫族籍姓名ヲ改メタル者ニ限リ裁判所
ヲ換免許狀願出ルモノニ無之儀ト心得へシ

〔第三十三〕當省甲第十五號布達前代言人再試験出願ノ者

試験期月ノ儀伺〔九月十一日〕 三 重 縣

詞訟代言人試験落第ノ者再試験之義心得方本年十月廿
三日付ヲ以相伺候所未タ御指令無之候得共其後本月四

第五號 九年十二月

日付御省甲第十五號御布達有之候ニ付テハ代言人規則御頒布以後右御布達迄ニ試驗落第ノ者モ總テ來十年三月ニ至ラザレハ試驗ヲ願フヘカラサル義ト相心得可然哉既ニ是迄落第ノ者當十月ヲ次ノ期月ト相心得候旨ヲ以再試驗願出候向有之取惑候ニ付此段相伺候差向候義ニ付迅速何分之御指令有之度候也

〔指令〕九月十二日再試驗之者本年十月迄不願出者ハ來十年

三月ニ至リ試驗イタシ候義ト心得ヘシ

〔第三十四〕七年第二十七號公布中貸金同様云々ノ儀ニ付

伺 九年十月十七日 大分縣

明治七年第二十七號御布告ニ預金穀ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ爲サルノ明文

ナキ分ハ出訴候共本年五月一日ヨリ以後ハ貸金同様ニ裁判可致ト之レアリ右ハ刑事ノ裁判ニ及フト民事ノ裁判ニテ盡ストノ區別ヲ示サレタルモノト存候ヘヒ若シ貸金同様トハ譬ヘハ預金穀ニテ其證書中ニ封印ノ儘或ハ融通使用ヲ爲サルノ明文ナク且無期限ナルキハ明治六年第十號御布告ニ依リ十二月ノ内濟方申附ル等ノ儀モ右貸金同様ノ字ニ含蓄致シ居候哉ト疑惑ヲ生シ候間此段相伺候條何分ノ御指揮ヲ仰キ候也

〔指令〕九月十二日 伺之趣ハ貸金同様ノ字中ニ含蓄シタル義

ト可心得事

但封印ノ儘預リ置候歟又ハ預リ中融通使用ヲ爲サルノ明文ナキモノハ自然預リ主ノ使用ヲ得其實

預ケ金ノ性質ヲ損シ貸金ノ實アルモノナルカ故ニ
明治七年第二十七號布告ヲ以テ其實ニ就テ之レヲ
區分セル者ナリ

十二月七日
指令

〔第三十五〕棄毀器物賠償金違約詞訟ノ義伺〔九年十一月一日〕

島根縣

爰ニ人ノ器物ヲ棄毀スルモノアリ物主ニ告訴セラレ
トスル際其價額賠償ノ契約ヲナシ私和スルニ期日違約
スルヨリ物主其契約證書ヲ掲ケ賠償金請求ノ訴ヲナス
斯ノ如キハ尋常民事詞訟ト異ナリ然リト雖モ既ニ私和
ニ係ルヲ以テ其罪ヲ問ハサル以上ハ證書契約ノ通濟方
可申付哉將々刑律ニ觸ル、チ私和スルモノニシテ素ヨ
リ刑事ニ附帶スルヲ以テ民法上受理セスシテ可然哉相

伺候也

〔指令〕九年十二月七日 伺ノ趣賠償ノ違約ヨリ物主之ヲ訴ル者即
チ純粹ノ民事詞訟ニ付受理可致ハ勿論ニ候事

○第六號

十二月八日
指令

〔第三十六〕丁卯以前ノ質地貸借ニ、質入書入規則第十六
條ニ反觸セシモノ、儀伺〔九年九月二十日〕岩手縣

丁卯十二月晦日以前質地貸借ニシテ現今地所質入規則
ニ反觸スルモノハ御省日誌中明治七年十一月十日三瀨
縣伺〔日誌七年百八〕ノ御指令ニ六年七月三十一日迄ハ無
論質入貸借ノ確証有ル者ニ付壬申第三百十七號ノ期限

ニ拘ラス採上ケ云々ト之レ有リ同年十二月廿四日度會
 縣伺(日誌七年二百)ノ御指令ニモ亦分散配當處分ノ時先
 取ノ特權ヲ有セサル迄ト心得ヘシト之レ有リ右兩縣ヘ
 ノ御指令ニ照準處分及ヒ來ルト雖モ現今聊疑議ヲ生ス
 ル所口有リ乃チ丁卯以前質地貸借ニシテ現今質地規則
 第十六條ニ反觸スルモノハ尋常貸借ノ處分タルヘシト
 雖モ其証券年月日ハ依然タル丁卯以前ノ証券ニテ明治
 七年十月三十一日ヲ以テ之ヲ改メタル尋常貸借ノ証券
 ト視做スヲ得ス然リ而シテ凡丁卯以前ノ貸借出訴ノ權
 ハ壬申第三百十七號公布ヲ以テ之ヲ拋棄シ苟モ其權利
 ナ壬申十一月以後ニ保存スル者ハ獨リ質地先取リノ權
 力有ルヲ以テナリ然ルニ質地規則第十六條ニ反觸シ明

治七年十月三十一日ヲ經過スルモノ質地先取ノ權力モ
 亦全ク斷滅セリ其權力滅絶シテ其証券ノ年月日故ノ如
 クナレハ未ダ丁卯以前尋常貸借タルヲ免レス然ラハ則
 丁卯以前ヨリ質入之レ無キ貸借ト亦何ソソ異ナラン苟
 モ之ニ異ナルコト無ンハ其出訴ノ權ハ壬申年中既ニ之ヲ
 拋棄セリ奚ソソ現今ニ至テ獨リ之ヲ回復スルノ條理有
 ソヤ若シ果シテ然ラハ宜シク之ヲ受理スヘカラサルモ
 ノ、如シ然リト雖モ未ダ成規ノ由ルヘキヲ見サレハ無
 論丁卯以前質地貸借ノ權力ハ規則第十六條ニ觸レ明治
 七年十月三十一日ヲ以テ斷滅スト雖モ其遺力猶同年十
 一月一日ヨリ更ニ尋常貸借ノ權利ヲ生スル特別ノ力ヲ
 有ルモノト見做シ從前ノ如ク受理然ルヘクヤ相同候也

但沽券狀ヲ預リ置キタルヲ以テ質入ト見做スモノモ亦本文ノ如ク相心得然ルヘク哉添テ相伺候

〔指令〕九年十二月八日 伺之趣明治七年第七十六號布告ニ反觸シ

タル質入貸借ハ丁卯以前ヨリ質入ナキ貸借ニアラス右七十六號布告ニ反觸シタルヲ以テ初メテ其性質ヲ變シ唯タ先取ノ特權ヲ失フタル迄ニ付受理ス可キハ勿論ノ事

但シ債主ヘ沽券狀ヲ引當ニシテ預ケ置キタル分モ同様受理ニ及フ可キ事

〔第三十七〕貸主ヨリ讓受ケシ貸金穀証書ヲ以テ出訴審理

中第九十九號公布出ルニ因リ一時訴狀差下ケシ儀

ニ付伺〔九年十月二十四日

三 重 縣

本年第九十九號金穀等借用証書ヲ其貸主ヨリ他人ニ讓渡ス時ハ其借主ニ証書ヲ書換ヘシムヘシ若シ之ヲ書換ヘシメサルニ於テハ貸主ノ讓渡證書有之トモ仍ホ讓渡ノ効ナキモノト爲スノ公布ニ依リ此ノ公布以前貸主ノ讓渡シ証書ノミチ以テ出訴ニ在ルモ未タ裁判ニ及ハサル者ハ現在成規ニ抵觸スル無効ノ証書ヲ以テ今日裁判ニ及ヒカダキ筋ト見込其証書書換ヲ爲スヘキ旨ヲ以テ訴狀差下ケ可然乎ノ旨本年九月五日付伺書進達及ヒ候處右ハ出訴期限ノ成規モ有之前段御指示待招中此ノ爲メ裁判中止致シ兼候間斷然該見込ヲ据ヘ其証書書換ヘシムヘキニ係ル訴狀ハ証書書換出訴スヘキ旨ヲ以テ一時訴狀差下ケ畢リ候後曩ニ伺之趣ハ該公布人民一般周

第六號 九年十二月

知ノ後ニ取結ヒタル讓渡証書ノミト可心得旨十月五日付ヲ以テ御指令茲ニ到達仕候然レハ今後ハ債主ノ讓渡シ証書ノミヲ以テスルノ出訴ニ於ケルモ該公布前ニ在ルモノハ無論准理及フヘシト雖モ前顯御指令到達以前該見込ヲ据ヘ既己ニ差下ケタル訴狀ハ其儘ニ措キ可然手

一前條伺御指令到達以前証書書換ノ上出訴スヘキ旨該見込ヲ以テ既己ニ差下ケタル訴狀ヲ仍ホ其証書ヲ書換スシテ該御指令ノ趣ヲ或ハ承認シ其儘再訴スルカ如キアルハ前キニ書換フヘキ旨ノ一ノ判決ニ反スル出訴ニシテ所謂覆審ニ係ルノ嫌コレアル儀ニ付右ノ如キハ初審裁判ニ於テハ准理スルノ限リニ非ル儀ニ可有之乎至

急御指示被成下度相伺候也

〔指令〕九年十二月八日 第一條 伺之通

第二條 覆審ニ係ルモノニ非ス其裁判所ニ於テ准理及フ可キ事

十二月九日 指令

〔第三十八〕初審直者ニシテ終審曲者トナリ初審曲者ニシテ終審直者トナリ終審直者ニシテ上告曲者トナル如キ訴訟入費償却方伺 九年八月九日 筑 摩 縣

第一條 凡ソ民事詞訟ニ付曲者トナルモノハ其直者ニ對シ初發ヨリ初席對審ノ結局迄一切ノ入費ヲ辨償スルハ豫メ定限ニ依ルト雖モ若シ初告裁判ノ節曲者タルモノ其裁判ニ不服上等裁判所ニ控訴スル如キモ終始皆一段落タルヲ以テ其初審中ノ入費ハ該裁判ノ曲者ヨリ償

却シ終審中ニ係ル費額ハ其裁判ニ付曲者トナリタルモ
ノヨリ償却セシムル儀ニテ假令初告裁判ニ直者タルモ
ノ終審裁判ニ於テ却テ曲者トナルト雖モ最前ノ直者ヲ
シテ最後ノ直者ニ對シ始終審中ノ入費共ヲ併セテ償却
セシムル筋ハ無之儀ト相心得可然哉

第二條 前條ノ場合ニ於ルモ之ヲ反視シテ云ハソニ該
訴訟發ルノ日ヨリ初告裁判ヲ經テ猶終審ノ裁判ニ至リ
其結局迄ヲ指シテ本訴ノ一段落トナサハ今爰ニ初審裁
判言渡ヲ受ケ其控訴期限内三ケ月ニ在テ若干ノ入費ヲ
一旦償却シタルノ後テ該裁判ニ不服ノ旨ヲ以テ及控訴
果シテ直者トナリタルキハ已ニ償却相濟タルモノト雖
モ直チニ之ヲ引戻サセ猶終審ノ曲者ヲシテ始終審中ノ

入費ヲ併セ更ニ償却セシムル儀ト相心得可然哉

第三條 第一條ノ場合ナルモノヲシテ必然第二條ノ如
クナラシムルキハ若シ爰ニ初終ノ裁判ヲ經テ猶其兩裁
判ニ不服大審院ニ上告シ破毀ヲ求メタルニ果シテ之ヲ
破毀セラレタル如キハ其始終兩度ノ裁判中ニ關スル入
費ヲ併セテ返却シ及ヒ更ニ償却ノ道ヲ盡サセ候テ可然
哉

右之條々決兼候付相同候條至急何分之御裁下仰望候也

指令 九年十二月 第一條 終審裁判ノ曲者ハ初審ノ入費ヲ
モ可償却儀ト可心得事

第二條 伺之通
第三條 伺之通

十二月十日
二日指令

〔第三十九〕〔九月十一日〕 代理人部理委任ヲ受ケ出訴中事故アリ更ニ他
ヘ部理代人ヲ委任スルヲ得ヘキヤ〔九月二十日〕 伺

三 重 照

爰ニ詞訟代言ノ免許ヲ得タル甲者アリ他ヨリ部理代人
ノ委任ヲ受ケ出訴中疾病事故有之曾テ本人ヨリ取置ク
ル委任狀ヲ添ヘ更ニ乙者〔九月十一日〕 免許代
言人ヘ部理代人ヲ委任スル
ヲ得ヘキ哉尤法例彙纂民法二第八卷第二章中〔九月〕 滋賀
縣ヨリ御省ヘ伺總理代人ノ委任ヲ受タル者ヨリ委任狀
ヲ授ケ部理代人ヲ委任スルヲ得ヘキ乎云々ノ御指令
ニ伺之通ト有之候得共總理代人ト部理代人ノ區別有之
取惑候ニ付此段相伺候也

〔指令〕〔九月十二日〕 伺ノ趣總理部理ノ區別ナク各々代人ヲ委

任スルヲ得ヘキ事

但詞訟本人ノ指名スル者ヲ除クノ外後ノ代人〔乙者〕
一切ノ所業ヨリシテ生シタル詞訟本人ノ損害ハ前
代人〔甲者〕タル者詞訟本人ニ對シ其責ニ任スヘキ事

十二月十日
三日指令

〔第四十〕〔九月十日〕 身代限財産取調ノ節保証人立會ノ儀上申〔九月十日〕 一月十日

日二 名古屋裁判所

凡ソ保証人連印ノ証書ヲ以テ訴訟ヲナス者ハ先ツ負債
者ノミニ係リ出訴致シ該者身代限ノ末不足金アルニ至
テ保証人ニ係リ償却セシムル舊慣ニ有之然ル所初メ負
債者身代限財産取調ノ節保証人立會點檢セサルニヨリ
屢其財産ヲ隱匿スルノ弊害アリ其レカ爲後日保証人苦
情申立實際上不都合不勘仍テ責任アル受人証人等連印

ノ証書ヲ以テ訴訟スル者ハ初メヨリ其連印ノ者一同ニ
係リ出訴致シ負債者身代限ノ節ハ財産取調及ヒ賣拂等
ニ其保証人立會致サセ若シ不足金アルキハ直ニ其保証
人ヨリ償却セシムヘキ方大ニ手數ヲ省クノミナラス弊
害モ無之候尙右法方御制定公布相成リ度此段上申仕候
以上

〔指令〕九年十二月上申ノ趣難聞届但負債者身代限財産取調
及ヒ賣拂ノ節其請人証人立會セ候儀ハ裁判官ノ見込
ヲ以テ適宜ノ處分及フ可キ事

○第七號

〔第四十二〕身代限處分ノ節區入費取立方ノ儀伺（九年十一月八日）

島根縣

御省本年達第七十號ヲ以身代限處分ノ節區入費取立方
之儀御達有之ニ付左之條々疑議ヲ生ス
第一條 身代限處分ノ節區入費取立ノ金額ヲ區戸長ヨ
リ訴出ルハ地方官ヨリ租稅未納金ヲ訴出ルト同ク訴訟
用罫紙ヲ用ルニ及ハサル乎
第二條 身代限ノ揭示日限ニ拘ハラズ財産分配處分濟
迄ノ區入費ヲ取立サセ可然哉
第三條 當地方ニ於テハ區入費壹ケ年四度ニ課出スヘ
キ旨布達有之所區戸長疾病又ハ事務ノ都合ニヨリ止ヲ
得ス期限遷延ノ向モ有之右ハ其期限ニ拘ハラズ未タ出

第七號 九年十二月

金セサルモノハ都テ各債主ニ先立取立ヘキ儀ニ候哉
第四條 身代限處分ノ者未タ質入書入ニ爲サ、ル財産
有之キハ先ツ其財産ヲ糶賣シ區入費ヲ取立サセ可然哉
第五條 身代限ノ者動不動産質入書入ノ外差押フヘキ
財産無之キハ其動不動産糶賣代金ノ内ヨリ先ツ租稅縣
稅區入費ヲ取立餘金ヲ以債主ヘ濟方致サセヘキ儀ニ候
哉

右相伺候條至急御指揮ヲ仰キ候也

〔指令〕九年十二月十八日第一條 租稅ノ怠納ヲ訴フルハ訴訟用罫

紙ヲ用ユ可キ儀ニ付區戶長ノ區入費ヲ催促スルノ訴

モ同様タル可キ事

第二條 伺ノ通

第三條 伺ノ通

第四條 區入費ハ抵當アル債主ニ先キタツ可キ者ニ
付質入書入ニ爲スト爲サ、ルトニ拘ハラヌ其財産ヲ

糶賣シ先ツ區入費ヲ取立ツ可キ事

第五條 伺ノ通

○第八號

十二月二十七日指令

〔第四十二〕代言出願ノ者本管ヘ履歷照會往復遷延ニ付試
驗取計方伺 九年十一月三十日 宮 城 縣

高知縣士族當縣宮城郡國分町寄留島橋義幹ナルモノ宮
城上等裁判所及宮城裁判所ニ於テ代言相營ニ度御省甲

第十一號布達ニ準シ過ル十月中出願有之其履歷取調方ニ付御達第三十九號ニ依リ本管ニ照會致候處未ク何等回答無之試驗相運難ク同第六十五號ノ通り具狀ニ及兼候然リト雖モ其出願タル布達ノ期限ニ反セス只今履歷之詳悉ヲ要スル爲メ懸隔地方往復手數ノ逕延ニシテ不得止ノ事情加旃願主ニ於テモ營業上ノ請求旁十一月限リノ期ヲ超ルハ不都合ニ候得共回答有之次第試驗相遂ケ具狀致度此段御聞置有之度相伺置申候也

〔指令〕九年十二月廿七日 伺之趣聞届候事

十二月廿八日指令

〔第四十三〕縣下慣習ニテ貸借證書面利息記載方不都合有之ニ付向後處分ノ儀伺 九年二月二十日 濱田縣

當縣下ニ於テ金穀貸借ノ節利息ノ約ヲ定メスシテ証書

面元金穀ノ下ニ但シ利息ノ義ハト迄ノ文字ヲ書入レ取遣リ致シ候慣習有之處間ニハ不動産書入等ノ証書ニ但シ利息ノ義ハ月別壹割或ハ壹割五歩等當地普通利ノ十倍ニ及ヒ候類往々有之出訴ノ上被告ニ於テ當初利子ノ約束ハ定メス只利息ノ義ハ迄相認メ置候テ原告ニ於テ其餘ノ文字ヲ書加ヘタル者ニ有之旨之由右ハ到底原告ノ作爲カ又ハ被告ノ書損ニ可有之候得共裁判官ノ想像ヲ以テ容易ニ判決ヲ下シ難ク裁判上ノ差支不少候ニ付自今金穀貸借証文中元高並利子ノ數字又ハ返濟期限等總テ約定ノ緊用ニ係ル文字ニハ必ス押印致スヘク若シ押印無之証書ヲ以テ及出訴一方ヨリ異議ヲ生スルハ約束ノ効ナキモト相定メテレ尙ホ從前取結ヒタル

証書モ要所ニ押印無之分ハ更ニ借主ノ押印ヲ取り置ク
 へキ旨一般御布達ニハ相成間敷哉若シ其儀難相成候得
 ハ前件ノ筋合ナル証書其他原告ノ作為被告ノ誤寫等ニ
 係ルノ嫌アル証書ニテ一方ノ申立適實ナリト思量スル
 キハ証書面ノ約定ニ憑ラス更ニ相當ノ裁判ニ及ヒ候様
 致シ度左様無之ヲハ人民ノ權利ヲ伸暢スヘキ訴訟ハ翻
 テ奸徒作弊ノ奇貨トナリ曲直ヲ判定スル裁許ハ看ス々
 良民へ枉屈ヲ蒙ラシムルノ具ト相成申スヘシ前段ノ事
 實御洞察急ニ何分ノ御指令相成度此段相窺申候也
 〔指令〕九月十八日 伺ノ趣原告ノ作為被告ノ誤寫等ノ嫌アル
 モノハ篤ト審理ノ上其事實ニ因リ相當ノ裁斷及フヘ
 キ事

但緊要ノ箇所若クハ文字ニ押印ノ儀ハ布達不及候
 事

〔第四十四〕身代限處分ノ節納期限不至税金モ第一引去ル
 可キ儀ニ付伺 〔九年七月十八日〕 敦賀縣

第一條 身代限處分ノ者収税ノ儀ニ付本縣ヨリ大藏省
 ニ伺出候處伺之通ト指令相成候就テハ身代限處分ヲ受
 ルトキハ納期限至ラサル税金モ第一引去ル可キノ處酒
 類釀造税ノ如キハ前年十月一日ヨリ其年六月三十日迄
 平均相場ヲ以テ九月三十日限皆濟致ス可キモノニ付納
 期以前ニ處分ヲ受クル者ハ其税額確定セスサリトテ預
 算ヲ以テ引去財産分配ノ後納期ヲ待テ精算ヲ立ントセ
 ハ大ニ混雜ヲ生ス因テ前年十月一日ヨリ該月マテノ相

場ヲ以テ其額ヲ定ム可キ哉或ハ前年平均相場ノ比較ヲ以テ定ム可キ哉又或ハ賣捌代價ヲ以テ定ム可キ哉

第二條 前條大藏省エ伺文中車税ノ儀ハ營業人身代限處分ヲ受ケ因テ廢業スル者ノ収税ト心得其廢業セサルモノハ假令處分ヲ受クルモ車ハ抵償トシテ差押フ可カラサルモノニ付納期ニ先タテ収税ニ不及儀ト心得可然哉

右兩條決兼候ニ付別紙大藏省伺指令寫相添奉伺候至急御指令被成下度候也

〔指令〕九年十二月二十八日 第一條 前年十月一日ヨリ身代限申渡シテ受ケタル月迄ノ平均相場ヲ以テ其額ヲ定ム可キ

事

第二條 収税官吏ヨリ訴出ツルニ於テハ先取ノ處分ニ及フ可キ筋ト可心得事

別紙

諸釀造税及ヒ車税之類其納期以前各營業人ニシテ他ノ負債ノ爲メ身代限リ處分ヲ受候時ハ假令期限ニ至ラサルモ其税ハ上納ス可キモノニ付其旨裁判官へ通知ノ上税金引取可然哉此段奉伺候以上

明治九年五月一日 敦賀縣權令山田武甫 印

大藏卿大隈重信殿

第五千百三拾八號

伺之通

〔第四十五〕出訴期限規則第四條ト六年第十號公布トノ疑

第八號 九年十二月

義、並負債主數名連署中ノ壹人身代限ニ逢フキ債主
分散金請求ノ儀ニ付伺〔九年八月三十一日〕 島根縣

第一條 明治六年第三百六十二號公布第四條ニ約定證
書中期限ナキモノハ出訴ノ日ヲ期限ト看做云々有之ニ
付貸金穀證書中返濟期限ナキ者ト雖出訴後ハ直ニ濟
方申付獨リ金子出來次第濟方可致旨ノ証文ノミ明治六
年第十號公布ニ依リ十二ヶ月内ノ濟方可申付儀ニ候哉
第二條 負債主數名連署分借明文無之証文ヲ以テ金穀
ヲ借用シ其証文期限内負債主ノ中一人他ノ事件ニ付身
代限ニ逢フキハ債主其人員相當ノ金額ヲ分割シ分散金
ヲ請求セハ受理可然ト雖出訴後ハ直ニ証文金全額ヲ掲ケ分散金ヲ
要スルキハ獨リ身代限ニ逢フモノノミノ盡スヘキ義務

ニ非サルヲ以テ受理相成ラサル筋ニ候哉
右疑議ヲ生シ候ニ付相伺候也

〔指令〕〔九年十二月廿八日〕 第一條 明治六年第十號ノ布告ハ返濟期
限ナキ貸金穀證書及ヒ金子出來次第濟方可致等ノ明
文有之証書ヲ以テ証ト爲シタルノ訴訟ヲ判スルニハ
十二ヶ月ノ内濟方申付可シト示教シタル法律ナリ明
治六年第三百六十二號布告第四條ハ訴訟人ノ出訴期
限ヲ示教シタル法律ナリト可心得事

第二條 受理及フ可キ事

〔第四十六〕盜贓賠償等ノ處分不服ノ者上告ノ儀ニ付伺〔九年十月二
十三日〕 東京裁判所

本月十一日付ヲ以テ刑事ニ屬スル民事ノ處分ヲ受ケ不

服之者ハ大審院へ上告可致管ナルヤ云々奉伺候處右刑
事ニ屬スル民事處分トハ何様ノ事實ナリヤ詳細ニシテ
尙可伺出旨御指令相成右刑事ニ屬スル民事ノ處分トハ
假令ハ甲盜贓タルト情ヲ知ラフシテ買取リ乙へ賣却ス
ルニ其後盜贓タルヲ發覺シ法ニ依リ其品乙ヨリ追徴シ
テ本主へ還付スル時乙買取ル節ノ代價ハ甲ヨリ乙へ賠
償セシムル等ノ處分ニ不服ナル者ノ類ニ有之候此段復
申仕候間至急御指揮奉願候也

〔指令〕九年十二月廿八日伺ノ趣ハ刑事ニ附帶シテ起ルモノト雖モ
到底民事ノ處分ニ歸ス可キ筋ニ付民事ニ付テ不服ノ
者ハ民事ノ手續ニ依ル可キ儀ト可相心得事
但シ初告裁判所ニ於テ刑事ノ申渡ヲ爲シタル時ハ

申渡ヲ受ケタル者モ刑事ノ上告ヲ爲スヲ得ヘキハ
無論ナリトス

〔第四十七〕七尾輪島ニ區裁判所設置ノ儀伺〔九年十二月廿日〕
金澤裁判所

當管下能登國七尾表ニ支廳設置之儀取調候所舊七尾縣
廢止以來石川縣ニ於テ該地ニ行政支廳ヲ置併セテ裁判
事務モ取扱居候處彼地ノ儀ハ尤未開ニシテ訴狀モ作リ
得サル等ノ人民不懃隨テ事務モ寡少ナルニ依リ右支廳
ヲ廢シ當時ハ本廳ニ於テ其事務取扱居候趣ニ有之右等
ノ事情ヲ以テ推考スレハ今茲ニ支廳ヲ設置スルハ牛刀
ニ屬スルニ似タリ勸解適宜ノ人民トモ謂ッヘキカ就テ
ハ他日支廳設置ノ御都合モ可有之候ニ付其廳廢ハ支廳

ノ見込ヲ以テ營造シ而ノ當分之内其廳中ニ區裁判所ノ
ニ御設置相成候様仕度然ルニ同國奥郡ト唱へ珠洲風至
兩郡ノ内偏ル村落ハ七尾ヲ距ツ凡廿七八里許ナルヲ以
テ其瑣々タル事件ニテ勸解ヲ乞フ如キニ至テハ往返ニ
空ク日數ヲ費スニ至ル仍之右中央第六大區七小區風至
郡輪島ニ今一ヶ所區裁判所御設置相成候得ハ至極人民
ノ便宜ト見込候ニ付此旨上申仕候至急御指揮奉仰候也

〔指令〕九年十二月廿八日上申之趣承届候事

〔第四十八〕越中國魚津ニ區裁判所設置ノ儀伺〔九年十二月廿日〕之略

金澤 裁判所

〔指令〕九年十二月廿八日之略

〔第四十九〕加賀國小松ニ區裁判所設置ノ儀伺〔九年十二月廿日〕之略

同 所

〔指令〕九年十二月廿八日之略

〔第五十〕越前國大野ニ區裁判所設置ノ儀伺〔九年十二月廿日〕之略

同 所

〔指令〕九年十二月廿八日之略

〔第五十一〕大和國五條ニ區裁判所設置ノ儀伺〔九年十二月廿三日〕之略

大坂 裁判所

〔指令〕九年十二月廿八日之略

○第九號

一月十日 指令

六十九

第九號 十年一月

〔第五十二〕家祿奉還願中賜金ヲ抵當ニシテ負債スル者並ニ

詞訟代人ノ儀ニ付伺（九年五月三十日）

香川縣

第一條 士族ノ輩家祿奉還願中或ハ既ニ願濟許可ヲ得未々賜金無之内本人一時ノ都合ヲ謀リ右賜金下リ次第返償ス可キノ約ヲ爲シ負債ニタルハ右賜金受取ノ日ヲ期限ト見做シ裁判致シ可然哉又ハ願中ト雖モ其許可ノ有無不相分内ノ引當契約ニ付家祿ヲ書入タル者トシ壬申第三百號公布ニ因リ裁判不及候テ可然哉

第二條 當縣民事詞訟ノ儀ハ本年既ニ千三百號ニ向ントスルニ從前多クハ代言ヲ以テスル者十ノ七八ニ居ル然ルニ御省本年甲第壹號御布達ニ四月一日以後ハ右規則ノ通り免許ヲ經サル者へ代言相頼候儀不相成云々但書四月一日以後代言人無之且本人疾病事故ニテ不得止

場合ニ於テハ其至親ノ内之ニ代ルヲ得ヘク云々其前後文勢ヲ考フルニ免許ヲ得タル代言人アル地ニ於テハ疾病事故アル者必ス之ニ依頼セサルヲ得サル様相見ヘ候得共縣下從前代言人ノ如キ其任ニ應セサルヲ知ル歟四月來願望ノ者僅カニ兩三名ニシテ此末試驗免許ヲ得ルモ夥多ノ詞訟一々之ニ頼ルルハ事實差支ハ勿論ノ儀ニ付假令免許ヲ得タル代言人有之モ本人出頭差支ル者ハ其至親若クハ至親ナキ者區戸長証書ヲ以相當ノ代人ヲ爲差出候テ可然哉

右豫テ心得罷在度相伺候條至急御指令奉仰候也

〔指令〕（十年一月十日） 第一條 賜金受取ノ日ヲ期限ト看做シ受理可及事

但シ奉還願中ニ契約スル者ハ未必ノ契約ニ涉ルト
雖ヒ唯タ賜金ヲ引當ニシタルマテニテ家祿ヲ書入
シタル者ニ非ラサレハ壬申第三百號布告ニ抵觸無
之事

第二條 伺之通

○第十號

〔第五十三〕家祿奉還ノ儀ニ付石川縣伺指令改正ノ達書〔十

一月十日

金澤裁判所

明治七年三月十二日附家祿奉還ノ儀ニ付石川縣ヨリ伺
之儀ハ詮議ノ次第有之左ノ通改正候條此旨相達候事

家祿奉還願中退々下賜セラレヘキ資本金ヲ抵當トナ
シ貸借スルモノハ未必ノ契約ニ涉ルト雖モ家祿ヲ書
入シタル者ニ非サレハ壬申第三百號布告ニ抵觸無之
事

〔第五十四〕同上ニ付達書〔十年一月十日

松江裁判所

明治八年十二月家祿奉還ノ儀ニ付石川愛知兩縣へ指令
〔石川縣伺日誌七年第六十六號一丁〕反對ノ振合同出ニ付
〔愛知縣伺日誌八年第二十六號七丁〕反對ノ振合同出ニ付
云々鳥取縣へ指令〔日誌九年第四〕ニ及候所明治七年石川
縣へ指令ノ儀ハ今般別紙寫ノ通改メテ達候條此旨相達
候事〔別紙ハ第五十三金澤裁判所へノ達書ナリ故ニ略ス〕

〔第五十五〕家屋ヲ質入書入トシ身代限ノ節其債主先取ノ
特權有無ノ儀伺〔九年十月十六日

京都裁判所

一月廿五日
指令

第十號 十年一月

明治八年第五十三號公布地所質入書入ハ尋常ノ私約ト違ヒ戸長役場ノ帖簿ニ記載シテ與書割印モ有之公正ノ証書ニ付若シ身代限財産中質入又ハ書入ノ地所アリテ其債主揭示中ニ訴出サル節ハ其地所糶賣代價ノ中ニテ債主受取ルヘキ元金高ニ糶賣金配當ノ日迄ノ利息ヲ加ヘ第一番ニ引去リ裁判所ニ於テ之レヲ糊封シ掛リ官員兩名調印ノ上戸長役場ニ預ケ置キ後日債主願出次第相渡スヘク云々トアリ若然レハ諸建物ヲ質入書入トシ同年第四百四十八號公布第五條ノ手順ヲ盡セシ貸金ノ証書ヲ所持セルモノ若其負債主外事件ニ依テ身代限ノ處分ヲ受ルニ其揭示中ニ在テ假令是ヲ訴ヘ出ストモ是又前條地所抵當ノ証書ヲ所持スルト同一ノ權利ヲ有スルモ

ノニ付均ク其糶賣代價ノ中ヨリ其債主受取ルヘキ元金并分配金配當ノ日迄ノ利息ヲ加ヘ第一番ニ引去ル等一轍ノ處分ニ及フ可キ筋ニ相見候處同年司法省日誌第百二號ヲ閱スルニ名東縣伺略上地所ノ外家屋等ノ質入書入ハ其規則無之トモ地所質入書入ト同シク先取ノ特權有之モノニ付云々トアルニ右第四百四十八號公布以後ノ御指令百四十八號公布ハ八年九月三十日ニアリニ日本年第五十三號公布ハ質入書入ノ地所ニ限リ中其他物品ニ照準スヘキ規則ニアラサルモノトアリ依之視之ハ其地所ニ在テハ右五十三號公布ノ手順ヲ盡シ質入書入ニ取置クハ債主其身代限揭示中訴出ストモ先取ノ特權ヲ得其建物ニ於テハ假令第四百四十八號ノ公布ヲ履行セ

シモノト雖モ之ヲ訴へ出テサルキハ先取ノ權ヲ失フニ似タリ右ハ同一公正ノ証書ニシテ右之通區別致スハ法律上如何ノ意義之アルコトニ候哉了解致兼候間奉伺候條詳悉御示諭被下度候也

追テ本文名東縣伺ハ第四百四十八號公布以前ノ調コ付本文ノ如ク御指令相成候儀ニテ己ニ第四百四十八號ヲ以テ諸建物書入質ノ御規則被定候上ハ右手順ヲ履行セシ者五十三號公布ノ地所ヲ抵當ニ取ル者ト同一ノ權利ヲ有シ其分配金第一番ニ引去ル等ノ手續モ一轍ノ處分ニ可及筋ニ候ハ、成法ニ屬スル儀ニ付一般公布相成可然ヤト相考候ニ付此段申添候也

〔指令〕二十年一月十五日伺ノ趣八年第四百四十八號公布ノ手續ヲ經

テ抵當ニ取置キタル建造物ハ同年第五十三號公布ニ準據シテ處分ニ及フヘク尤モ名東縣伺ノ儀ハ區戶長ノ割印無之者ニ付キ第四百四十八號公布ノ手續ヲ經タル者ト同視スヘカラサル事

但追申ノ儀ハ一般へ公布ニ及ハス候事

〔第五十六〕不動産書入與書割印ノ儀伺九年十二月十二日

愛知縣

甲某ヨリノ借金若干一番書入 期限本年十一月限

乙某ヨリノ借金若干二番書入 同 十年三月限

右之如ク一個ノ不動産ヲ二番迄書入相成甲某ヨリノ借金期月返済シ更ニ同人ヨリ同數ノ金員ヲ借入ルキハ元二番書入証書ヲ一番ニシ元一番書入証書ヲ二番ト書替

第十號 十年一月

ノ手數ヲ經テ戸長役場ノ奥書割印取計可申哉又ハ前顯
 ノ如キハ元一番號ハ消滅スル道理ニ付更ニ三番書入ニ
 致シ元二番ハ証書面通其儘二番ニ据置一番ノ權理ヲ有
 セシメ可然哉或ハ乙金主承諾ノ有無ニ不拘猶一番書入
 ノ權ヲ甲ニ有セシメ奥書割印爲致可然哉此段相伺候條
 至急御指令有之度候也

〔指令〕二十年一月 伺ノ趣甲債主へ一旦償却ヲナシタル上ハ
 其契約ハ消滅ス可キ者ニ付之ニ交書(X)ヲ付シ第二番
 ハ其ノ儘ニ据へ置キ第一番ノ權理ヲ有セシメ甲ヨリ
 再借ノ分ハ更ニ第三番ニ書入レシム可キ事

〔第五十七〕訴訟ニ關スル測量費等償却方ノ儀伺九年十二月十四日
 宮城上等裁判所

一該訴ニ關シ測量藝員雇入其他測量繪圖杭木并持夫等
 ノ諸費惣テ測量ニ關スル分ハ是迄内務省ニテ仕拂裁
 判官ノ關セサル處ニ候得共此度該縣雇入ノ量地藝員
 相用ヒ測量爲致候ニ付テハ該量地ニ關スル入費償却
 方曲者ヨリ爲差出至當ト見込候得共成規無之付テハ
 内務省處分ノ通り官費ニテ仕拂可申哉
 右者現場處分ノ事件ニ關シ訴訟費定則外ノ儀ニ付此段
 相伺候至急御指令有之度候也

〔指令〕二十年一月五日 伺ノ趣總テ曲者ヨリ償却致サス可キ事
 〔第五十八〕訴答代言代人等疾病事故アリ該人ヨリ更ニ他
 ノ代言代人へ委任ノ儀伺九年十二月廿八日 和歌山縣
 一訴答本人ヨリ依頼ヲ受ケ候代言人并代人等疾病事故

有之出頭難致節ハ其日限り依頼ヲ受ケ候者ヨリ他ノ
 代理人又ハ代人ニ該事件ヲ任シ差出候テ不苦候哉
 一其日限り代理人差出ス場合ニ於テハ出頭ノ代理人へ
 委任狀ヲ與へ又ハ其旨届出候テ可然哉尤代人ヲ差出
 ス節ハ本日疾病事故ニテ代人差出ス儀區戶長保証書
 ナ以相届候テ可然哉
 右兩條之儀疑惑ニ涉リ候付何分ノ御指令有之度此段相
 伺候也

〔指令〕十月十五日 第一條 伺ノ通

但後ノ代人或ハ代理人ニシテ詞訟本人ノ指名スル
 者ニアラサレハ其一切ノ所業ヨリシテ生シタル損
 害ハ前代人并代理人タル者詞訟本人ニ對シ其責ニ

任ス可キ事

第二條 伺ノ通

但代人ヲ差出ス節モ委任狀ヲ渡ス可キ事

〔第五十九〕喚出郵紙代價假取立方ノ儀同九年十二月廿八日

松江裁判所

原被告喚出郵紙代價取立ノ儀ハ裁決後曲者ヨリ辨納可
 爲致成規ニ有之候所實際取扱上ニ於テ往々蕞爾タル辨
 納ノ爲ニ數十里遠隔ノ處殊更ニ相達候儀有之人民ノ疾
 苦不遑就テハ曲者ヲ不論其喚出ヲ受タル者ヨリ假ニ先
 納申付追テ裁決ヲ待テ原被告ノ者相償還ナサシメ可然哉
 此段相伺候條至急御指令被下度候也

〔指令〕十月十五日 喚出用郵紙代價ハ本裁判所ニ於テ立替置

第十號 十年一月

結局ノ日曲者ニリ取立可キ事

但シ不參督促ニ用ユル分ハ其本人ヨリ取立テ本訴
ノ曲直ニ依ラサル事

〔第六十〕免許代言人アルモ代人ヲ差出スヲ得ルヤ伺〔九年十二月
月

大坂上等裁判所

本年甲第一號代言人規則布達但書暨ヒ甲第四號代訴心
得方布達之儀ニ付代言人免許相成以來ハ本人又ハ代言
人ノ外ハ父子兄弟叔姪ト雖モ訴訟ノ代人不相成様相見
候得共代人ノ儀ハ素ト本人ノ情願ニ依リ其至親之ニ代
ルヲ得若シ至親無之者ハ區戸長ノ証書ヲ以テ相當ノ代
人ヲ出スモ亦差支無之哉ノ趣ヲ以テ本年六月十二日附
ヲ以テ相伺候處本人ノ情願ニ依ルヘキハ勿論ニ候旨本

年六月廿九日附御指令有之爾來本人親ヲ出訴シ或ハ至
親又ハ十ヶ月以上不斷雇人又ハ免許代言人ヲ以テ代訟
スルモ皆本人ノ情願ニ依リ受理シ來リ候然ル處京都裁
判所ヨリ免許代言人アルモ至親等代訟ヲ得ルヤノ伺ニ
免許代言人アリトモ人少等ニテ事實差支ル時ハ至親ノ
者若クハ規則ニ從ヒ相當ノ代人ヲ差出シ苦シカラサル
旨本年十一月六日附御指令アリ〔第二號〕且元兵庫裁判所
ヨリ代理人ノ儀ニ付本年十月十四日附伺ニ免許代言人
アリトモ事實差支ル時ハ至親ノ者若クハ規則ニ從ヒ相
當ノ代人ヲ差出シ不苦儀ト心得ヘキ旨本年十二月七日
附御指令有之這ノ兩裁判所ヘノ御指令ハ本人ノ外ハ專
ラ免許代言人ヲ依頼スヘク若シ實際免許代言人差支ラ

ル時ハ從ツテ規則ノ代人ヲ以テ訴出シムルノ旨意ニ相
 視當廳ヘノ御指令ト稍差異ヲ生シタリ而シテ神戶裁判
 所ニ於テハ元兵庫裁判所同御指令ノ廉ヲ固守シ代人ヲ
 以テ出訴スル者ヘハ免許代言人有之上ハ代人ヲ以テ出
 訴スルハ規則ニ反スル趣ノ判文ヲ以テ往々却下セラレ
 代訟者其判文ニ對シ不服ヲ唱ヘ控訴スルモノ間々有之
 有京都元兵庫兩裁判所ヘノ御指令ハ當廳ヘノ御指揮ト
 差異アリト雖ヒ要スル所訴訟ハ本人親告スルハ無論本
 人差支アル時ハ該地ニ免許代言者假令幾數人アルトモ
 委托センニハ其失費ヲ厭ヒ或ハ其代言者ヲ信セサル等
 ノ嫌ヒアレハ必シモ免許代言者ヲ用ヒストモ擴シ成規
 ノ代人ヲ出シ訴願ヲ通徹ナサシムルハ即チ本人ノ自由

ヲ妨ケサル甲第一號第四號ノ大主意ニ可有之ト賤官於
 テハ曾テ疑ハサル所ニ有之候然ニ右兩裁判所ノ如キハ
 當廳所管ノ儀ニ付彼是一定セサルモリシテ甲乙廳ニハ
 之レヲ理セス丙廳ハ之レヲ受理スルノ不體裁ヲ釀シ下
 人民ノ疑團ヲ生スル様ニテハ不都合甚シトセス因テ當
 廳見込適應セル儀ニ候ハ、右兩裁判所ヘモ同様更ニ御
 指令相成候方ト相考候此段相伺候至急御指圖有之度候
 也

〔指令〕二十一年一月元兵庫裁判所并京都裁判所ヘノ指令ハ訴
 訟本人失費ヲ厭ヒ若クハ不信等ノ嫌アツテ事實差支
 ル時ハ至親ノ者又ハ規則ニ從ヒ相當ノ代人差出シ苦
 シカラサルノ旨趣ナルヲ以テ其裁判所ヘ指令ノ趣旨

ト差異ハ之レナキ事

〔第六十一〕〔代理人控訴上告ノ儀伺〕十年一月六日東京裁判所
民刑裁判之儀都テ控訴上告相許置レ候ヘト明治九年本
省甲第一號御布達相成候代理人規則ノ如キハ格別ナル
モノニ付設ヒ該規則中第十二條及ヒ第十四條等ノ言渡
ヲ受タル者ハ控訴上告ヲ許サレサルト相心得可然哉
此段相伺候也

〔指令〕〔二十年一月十五日伺ノ趣控訴上告ヲ許ス可キ事〕

○第十一號

一月廿七日
指令

〔第六十二〕身代限糶賣金ヲ私借セシ掛官吏病死ニ付處分

方伺 九年十二月廿七日

愛媛縣

當縣元裁判所ニ於テ取調罷在候明治九年二月五日附本
縣下伊豫國喜多郡大洲中町平民岡田喜八ヨリ同國同郡
長濱町平民田淵治六ヘ係ル訴訟明治九年三月二日示談
身代限處分一件明治八年十月三十日附伊豫國宇和郡大
藤村平民太宰義彌ヨリ同國同郡宮ノ下村平民菊地伊勢
治ヘ係ル訴訟明治八年十二月廿三日身代限處分一件明
治九年二月廿二日附伊豫國温泉郡立花村士族西原義方
ヨリ同國同郡同村平民伊藤虎藏ヘ係ル訴訟明治九年三
月十四日示談身代限處分一件都合三件當縣元十四等出
仕當縣士族小泉正澄擔當己ニ被告人財產糶賣ノ上金員
徵收追テ各債主ヘ割付可致場合正澄儀西條裁判所支廳

第十一號 十年一月

出張申付候處後ト掛リ官ノ者へ一切引繼不申書類等
 マテ處在不明瞭ニ候處右ノ内菊地伊勢治へ係ル債主中
 一人割付願出候ニ付取調候得共明瞭不致依テ正澄へ歸
 應テ命シ取扱掛一件書類及ヒ現金不明瞭ノ廉詳細可取
 調旨相達候處折柄正澄儀過劇ノ癩癩病ニ罹リ應接中卒
 倒人事ヲ辨セサルノミナラス手續書ハ勿論言語モ不能
 爲ニ付差當々不明瞭ノ金員三十八圓五拾三錢五厘追テ
 病氣平癒出廳ノ上事ノ辨別ヲ了スル迄相償ヒ置候趣ニ
 テ差出候間其儘領置イタシ其節三週間篤ト療養相加エ
 度願出候ニ付其場ハ聞届且ツ旨ヲ論シ解官申付候元來
 本縣裁判所ニ於テ身代限處分ヲ被リ候者ハ財産糶賣金
 封ノ儘該區戸長ヨリ上納イタサセ該官直チニ爲換方ノ

者ニ命シ開緘致シ贖金惡幣等ヲ調査ノ上預リ切符ヲ出
 サシメ右切符ヲ徵収金遞附録ニ添へ第六課へ預置追テ
 割付ノ際切符ヲ現金ニ引換直チニ各債主へ相渡シ候定
 規ニ有之候間其後尙元七等判事吉田正春ニテ搜索ノ上
 漸ク書類ヲ檢出シ精細取調候處別紙ノ通別紙正澄ニ於
 テ遞附録へ調印ノ上切符受取現金ニ引換タルマ、各債
 主へ下渡サス全ク私借ノ姿ニ相見へ候ニ付屹度取糺ニ
 可及見込ヲ以致召喚候處不圖モ着縣否明治九年十一月
 廿七日卒カニ病死致シ罪跡推究スルヲ得ス甚不都合ノ
 至ニ有之候就テハ別紙ノ如ク多數ノ金員不足セルヲ以
 テ松山裁判所へ引繼モ不相成加之差向訴訟人共へ對シ
 處分方差支候間右ハ各債主ノ損失ト相定可然哉固ヨリ

御成規モ有之間敷候得共處分方至急御指圖有之度依テ
別紙相添此段相伺候也

〔指令〕二十年一月七日伺ノ趣債主ノ損失ニ立ツ可キ筋ニ無之ニ
付其趣旨ヲ了シ相當ノ處置可致事

〔第六十三〕民事呼出ヲ受ケ遲不參ノ者罰金言渡ノ儀伺二十年十一月十二日 東京裁判所

本年第五號御布告ノ意假令ハ民事呼出ヲ受遲不參之者
ハ即チ民事裁判官ニテ直ニ罰金言渡シ可然哉爲念此段
相伺候也

〔指令〕二十年一月二十七日伺之通

二月三日
指令

〔第六十四〕身代限ノ際金祿公債証書ハ抵償トシテ差押ヘサ
ルヤ伺九年九月十二日 青森縣

明治九年太政官第百八號公布ニ據リ一時下付ノ公債証
書ヲ所持セルモノ負債ノ爲メ身代限處分ノ節ハソノ所
有ノ公債証書ハ抵償トシテ差押ヘサル儀ニ可有之乎明
治九年太政官第百九號公布ニ有之ニ付此段相伺候也

〔指令〕十年二月十三日伺之趣明治九年第百九號公布ノ通書入質入
等ニ致候儀ハ禁止ニ付解禁ノ日迄テハ該公債証書所
持ノ者身代限ノ節モ抵償トシテ差押ヘカラサル儀ト
可相心得事

〔第六十五〕代理人規則ノ儀伺十年一月十一日 鳥根縣
代理人長谷川協輔ヨリ代言規則之儀別紙之通伺出候ニ
付指令案相添相伺候條至急御指揮有之度候也

別紙

明治九年二月廿二日司法省甲第一號御布達ニ米ル四月八日ヨリ以後ハ右規則通免許ヲ經サル者へ代言相頼候儀不相成云々但書ニ四月一日以後代言人無之且本人疾病事故ニテ不得止場合ニ於テハ其至親ノ内之ニ代ルヲ得ヘシ若シ至親無之者ハ區戸長ノ証書ヲ以テ相當ノ代人ヲ出スモ亦不苦ト有之右ハ既ニ代言人有之上ハ至親ノモノヲ以テ代理ヲラシムルヲ得ス總テ代言人へ依頼イタスヘキ筈ト被存候尤代言人ニ於テ差支ノ事故有之其依頼ヲ辭スルコト有之キハ至親ノ内代理ハ勿論至親無之者ハ區戸長証書ヲ以テ相當ノ代人ヲ出スヘキ順序ト相心得可然哉

明治九年四月十三日司法省甲第四號御布達ニ總テ代

人并代言人ヲ出ス場合ニハ委任狀ヲ渡シ又ハ訴狀與書可致儀ト心得ヘシト有之左スレハ委任狀而已ヲ携持スル時ハ別段委任狀全文寫シ訴狀ニ相添可申儀ニ候哉又ハ添加セサルモ不苦儀ニ候哉
 代言人免許満期ニ至リ引續其職務ヲ行ハントヲ欲シ其者出願未タ免狀御下付相成ラサル内以前ヨリ擔當願係ノ訴訟件ハ一先本人へ委任差返シ可申哉又ハ免許中ニ擔當セル儀ニ付該件落着マテハ擔當イタシ候モ不苦儀ニ候哉
 右ノ條款爲心得正副戸長與印ヲ以奉伺候間至急何分ノ御指令被成下度奉願候也

島根縣出雲國第四區嶋根郡

東茶町九百六十八番屋鋪

平民

明治十年一月八日

長谷川協輔

同區副戶長

井原清七

同 戶長

川崎彰之助

島根縣令佐藤信寬殿

指令案

書面伺ノ趣其筋ニ伺ノ上左ノ通及指令候

第一條 代理人有之地方ト雖モ本人疾病事故有之
不得止場合ニ於テ代人至親無之モノハ區戶長ノ証
書ヲ以テ相當ノハ代人ヲ出ス

等ヲ出スト代理人ニ囑托スルトハ本人ノ情願ニ任
スヘキ儀ト可相心得事

第二條 添加スル儀ト可相心得事

第三條 免許期限中ニ出訴致シ審判中ノモノハ該
件落着迄引續代言致シ不苦候事

〔指令〕十年二月三日 代理人規則ノ儀ニ付長谷川協輔伺出ノ趣總
テ其縣調査ノ通指令致スヘキ事

○第十二號

二月七日 指令

〔第六十六〕民事呼出ヲ受遅不參ノ者處罰方並處決表ニ掲

載ノ儀伺〔二十年一月二十七日

新瀉裁判所

九十五

第十二號 十年二月

本年第五號御布告凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受タル者疾病等ノ事故アリテ遲參又ハ不參スル時ハ云々裁判官ニ於テ直ニ五錢以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シト右科罰處分ノ儀ハ裁判官ニ於テ直ニトアルニ依リ民事ノ詞訟ニ就テ呼出ノ者遲不參ハ直ニ民事ノ裁判官ニテ科罰ノ處分ニ及ヒ刑事ノ裁判官ニ差廻サ、ル儀ニ候哉然ラハ毎月ノ刑事取調書及處決表等ニハ掲載致サ、ル儀ニ候哉又ハ民事ノ詞訟ニ付テ呼出ヲ受ケテ遲參不參ノ者ハ總テ刑事ノ裁判官ニ附シ處分ニ及而ノ毎月ノ刑事取調書及處決表等ニモ悉ク掲載スル儀ト相心得可申哉

右相伺候間至急仰御指揮候也
〔指令〕十年二月七日 民事裁判官ニ於テ直ニ處分可及儀ト可相心得

得事

但シ毎月ノ刑事取調書及處決表等ニ掲載致ス可キハ勿論ノ事

二月十二日
指令

〔第六十七〕同上 二十九年一月二十九日

京都 裁判所

裁判所ヨリ呼出ヲ受ケ遲不參致シ候者ハ裁判官直ニ處罰ニ可及旨本年第五號公布ニ付テハ民事ニ付召喚ヲ受候者遲不參ニ及フキハ其掛民事ニ付裁判官直ニ及處罰仍ホ其人員等ハ毎月差出シ候刑事處決表等ニ組込其族籍年齢職業宗門等モ其調書ノ内ニ認加候儀ト心得可然哉將々右ハ特ニ取調差出可申哉仰御指揮候也

〔指令〕十年二月十二日 民事ニ付召喚ノ際遲不參ノ者ハ民事裁判官ニ於テ直ニ處分ニ及ヒ其人員ハ毎月刑事處決表ニ

第十二號 十年二月

組込族籍等ニ調書中ニ記入致ス可キ事

二月十七日
指令

〔第六十八〕朝鮮國在勤管理官并清國駐留領事ニ委任狀ノ

儀伺二十年一月
二十七日

東京上等裁判所

朝鮮國在勤管理官並清國駐留領事ニ委任狀ノ儀外務省ヨリ伺出御允裁相成候旨別紙（略）相添御達ノ趣展閱候處該別紙第一項中懲役百日以上ノ者ハ犯人ニ假口書相副長崎上等裁判所ニ送致スヘシト有之同書第六項及ヒ第七項民事云々ノ件ニ至リ上等裁判所ト而已有之候得共右ニ長崎上等裁判所ノ儀ト相心得居可然哉此段爲念相伺候也

〔指令〕十年二月 伺之趣本年丁第十號達ノ通り心得ヘキ事

〔第六十九〕代言免許狀交換ノ儀ニ付願二十年一月二十九日

愛媛縣

滋賀縣士族安藤貞儀先般大坂上等裁判所大坂裁判所之兩所ニ於テ代言出願之上免許狀御下渡相成候處今般當縣ニ轉寓松山裁判所ニ於テ同職執行致度ニ付免許狀切換方別紙（略）之通願出候條則及進達候本人願之通至急御書換御下付相成度此段相願候也

〔指令〕十年二月 願之趣大坂表ノ免狀ハ已ニ無効トナリ松

山裁判所ノ代言ハ新規ノトニテ免狀切換ノ名義ハ無之追而代言出願期月ニ臨ミ曩日大坂表ニテ代言免許ヲ受シ理由ヲ記シタル願書ヲ出サシムベシ而シテ免狀下付スレハ免許料ハ更ニ收納セシム依テ別紙願書ハ一先還付候事

第十二號 十年二月

〔第七十〕出雲國杵築伯耆國米子一區裁判所設立ノ儀同〔十

二〇

松江裁判所

〔指令〕十年二月十七日

〔第七十一〕他人ノ實印ヲ以證書ヲ偽造シ金圓ヲ借ルモノ

辨償方伺 十年二月九日

東京裁判所

爰ニ甲乙丙三人アリ甲自己ノ實印ヲ故アリテ一時乙ニ
貸與セシニ乙其好機ニ乘シ竊ニ甲ヨリ丙ニ對シ金若干
ノ借用證書ヲ偽造シ該印ヲ押捺シ之ヲ丙ニ差入金圓ヲ
借受遂ニ其償期ヲ失スルヨリ丙ヨリ甲ニ掛リ催促ノ訴
ヲ爲シタリ右ハ乙ノ證書ヲ偽造シ得ルハ素ヨリ甲ノ擅
ニ實印ヲ貸與セシ所ヨリ釀生スル儀ニ付即チ甲ニ於テ
己ニ默許スル者ト見做シ其負債ノ責ニ任セシメ可然哉

又ハ該証書タルヤ全ク乙ノ偽造ニ係ルヲ以テ其効用無
之モノトシ其借用金ハ更ニ乙ヨリ丙ニ對シ直ニ辨償致
サセテハ如何可有之哉勿論甲乙共法律ニ背キ實印ヲ私
擅ニ授受シタル廉ハ刑事ノ處分ニ屬スト雖モ前顯償却
方ノ理由ハ孰レカ適當ナル歟此段御指揮奉仰候也
〔指令〕十年二月十七日 伺之趣乙タル者甲ノ實印ヲ貸與シタルヲ
幸トシ証書ヲ偽造セシ廉分明ナルニ於テハ固ヨリ甲
ヲシテ辨償セシムルノ理ナシ且刑法ニ於テ乙ノ罪ヲ
問ヘキ事

但シ甲ノ實印ヲ乙ニ貸與シタルノ事實ヲ究明スル
ハ証書ノ偽造ヲ明知スル爲メ欠クヘカラサル手續
ナレハ篤ト注意致スヘキ事

二月十九日
指令

〔第七十二〕控訴狀正副三本ヲ徴シ度伺〔十年二月三日〕

宮城上等裁判所

控訴狀ノ儀ハ八年五月第九十三號公布控訴上告手續第一章第八條ニ上等裁判所ニ捧クルノ訴狀ハ訴答文例ニ照準スヘシトアリ依テ文例第六條ニ從ヒ正副二本ヲ爲差出來候處己ニ上告狀ノ儀ハ御改正公布ノ上正副六本ニ定メラレタル權衡ニ依リ本衙ニ於テモ正副三本ヲ徴シ各員一本ヲ分収致度候因テ適宜ニ取計不苦候哉相伺候御指揮被下度候也

但シ本文上告狀ハ御改正公布ノ上定メラレタル儀ニ付控訴狀モ公布ノ後コアラサレハ執行難致筋ニ候ハ、何分ノ御詮議相成度此段添テ申上候也

〔指令〕十年二月十九日 伺之趣ハ徒ラニ訴訟入費ヲ増加スル者ナレハ詮議ニ及ヒ難候事

二月二十日
指令

〔第七十三〕貸借上違約金請求ノ訴處分ノ儀伺〔十年一月二十九日〕

仙臺裁判所

金穀其他貸借上償金又ハ違約金ヲ可差出事ヲ証書面ニ掲ケタルモ昨九年第八十號御達以來ハ詳カニ其事由ヲ取糺シ全ク無源因ニ歸スルモノハ賠償致サセサル儀勿論ノ處右御達前明治九年二月中宮城縣ニ於テ取扱候貸借一件ニ子母ノ外ニ許多ノ違約金ヲ差出シテ約シタルモノアリ故ニ子母合シテ凡ソ三十圓程ノ處違約金ヲ加算シタルヲ以原告ノ請求高二百八十圓余ノ多キニ至ル當時其請求高ヲ以受理ノ末被告無資力ニシテ身代限

ヲ以償却ニ充テタレハ抵償物無之依テ右請求高ヲ証書ニ裏書致シ原告へ下付シタリ然ル處今般該債主ニ於テ右裏書ノ金高ヲ押へ辨償人ニ係リ請求ノ儀訴出目安相糾シ候處加算シタル違約金ハ勿論無原因ノモノニ有之依テ推考スルニ前陳八十號ノ御達ハ新タニ一般ノ成規ヲ被設候儀ニハ無之念トシテ固有ノ條理ヲ御示シ相成候迄ノ儀ト存候間該御達ニ基キ無論既往ニ遡リ取扱不都合無之儀ト看据該訴ノ如キ假令宮城縣ニ於テ一旦裏書濟ノモノト雖モ右違約金ノ分ハ差除キ賠償セシメサル儀ト相心得處分致シ可然哉差掛リ候儀ニ付至急御指令有之度候也

〔指令〕十年二月廿日 伺之通

但シ原因ノ有無ニ至テハ精密ニ吟味ヲ遂ケ其弊ナカラシムヘキ事

○第十三號

二月廿二日 指令

〔第七十四〕准判規程第十條立會裁判ノ儀伺〔九年十一月六日〕

水戸裁判所

明治八年第百三號ノ公布ヲ以テ難訟疑獄モ各裁判所限リノ見込ヲ以テ判決スルノ權ヲ御委任有之上ハ他管交渉ノ境界論ノ如キモ尋常普通ノ受理法ニ依リ被告所轄ノ廳ニ於テ裁判シ可然ト被存候へ共辛未六月公布訴訟准判規程第十條ニ據レハ他管交渉ノ境界論ノ詞訟ハ尙

第十三號 十年二月

訟者ノ應ヲ主ト爲シ原被兩廳ノ立會裁判ヲ爲サ、ルヲ得サルニ似タリ抑准判規程公布ノ際ハ維新日尙淺ク各地府藩縣ノ受理法區々ニテ控訴上告ノ道モ未タ開ケサルヲ以テ彼我交渉ノ境界論ノ如キハ一層鄭重ノ取扱ヲ爲サ、ルヲ得スト雖モ方今ニ至テハ各裁判所ニ孰レモ本省ヨリノ派出吏員ニテ裁判ノ氣脉自ラ貫通シ控訴上告ノ道モ開タレハ兩廳ノ立會裁判ハ實ニ無益ノ法カト被存候尤追々ノ布告布達アリテ准判規程ノ條々ハ大概自ラ消滅シタルニ唯第十條中ノ訟者ノ廳ヲ以テ主ト爲シ立會裁判ヲ爲ストノ趣意ヲ更正シタルノ布告布達ハ未タ曾テ之レヲ見サレハ此一項ニ於テハ尙生存シタル者ト相心得可然哉至急御指揮相成度此段相伺候也

〔指令〕十年二月凡ソ地所ニ關涉スル訴訟ハ地所々管ノ裁判所於テ受理スヘキ者ニ付キ其地所若シ兩廳ノ管轄ニ交錯スルキハ兩廳ノ内何レニテ受理スルモ原告ノ出訴ニ從フヘキ事

但准判規程ノ儀ハ既ニ消滅シタルモノト可相心得事

〔第七十五〕至親無之者區戶長ノ證書ヲ以テ代人ヲ出ス儀ノ伺
 十年二月一日
 廣島縣

客年御省甲第壹號御布達但書中ニ若シ至親無之者ハ區戶長ノ證書ヲ以相當ノ代人ヲ出ス亦不苦ト有之其相當ノ代人行心術誠實品ハ專ラ本人ニ於テ之ヲ撰擇シ區戶長ニ於テハ單ニ本人ノ至親ナクシテ己ムヲ得サルニ出ル

情實ヲ證スル迄ニテ代人ノ心術品行等ヲ保證スル譯ニ
無之儀ト相心得可然哉若シ區戸長於テ其代人ノ心術品
行等ヲ證スルモトセハ左ノ事項ニ抵觸セル者ヘハ證
書ヲ附與セシメサル儀ト相心得可然歟即今伺出候向モ
候條至急何分ノ御指揮被下度此段相伺候以上

- 一 心術不誠實並品行不正ノ者
 - 一 除族或ハ懲役一年以上ノ刑ヲ受シ者
 - 一 竊盜等ノ罪科ヲ受シ者
 - 一 身代限ノ處分ヲ受シ者
 - 一 當管下ニ定リタル住居アラサル者
 - 一 官員並準官吏タル者
- 〔指令〕^{二十年二月二日} 伺ノ趣己ムヲ得サル情實ヲ證スル迄ト心

得ヘキ事

〔第七十六〕(裁判上)ニ付裁判官ヲ相手取訴出ノ儀伺^{十年二}
日 東京裁判所

爰ニ高知縣士族弘瀬就良ナル者英人「エフ、エスコンペー」
ヨリ鹿兒島縣士族前田獻吉ヘ掛ル煉化石製造器械代金
請求一件ニ付被告ノ代言人タリ因テ昨明治九年十二月
十八日ヲ該詞訟對審ノ當日ト相定己ニ十日以前ニ喚出
狀ヲ達シ置シニ其期日ニ至リ故サラニ遲參届ヲナシタ
ル所不參同様ノ始末ニ付遂ニ其聽訟延日ニ及ヒ之レカ
爲メ原告人於テ若干ノ損失ヲナシタリト訴フ裁判官於
テ之ヲ確實ナリト見認メ明治九年甲第壹號本省布達代
言人規則第十二條ニ依リ即チ別紙甲號ノ通り就良ニ其

償金申渡タリ然ル處同人之ヲ不當ナリトシ下官ヲ相手
 取リ東京上等裁判所へ控訴セシニ別紙乙號ノ言渡ヲ以
 テ却下サレタリ同人猶之ヲ不法ナリトシテ大審院へ上
 告シタル由ニテ即チ同院ヨリ別紙丙號ノ通上告狀副本
 添へ當廳へ至急答辨書可差出旨達セラル然レヒ當裁判
 所於テ其答辨書可差出理由無之ニ付即チ別紙丁號ノ通
 リ及回答其副本ハ直チニ返却ス抑裁判言渡ヲ受ケ者
 假令其言渡ヲ不服ナリト雖ヒ其言渡ヲ爲シタル裁判官
 チ被告トシテ訴出ルコト不相成儀ト兼テ確信罷在候處豈圖
 ランヤ大審院ニ於テハ下官ヲ被告ト認タル上告狀ヲ以
 テ我ニ答辨ヲ徴シタルハ是控訴上告手續第二拾條第二
 拾二條ニ準據シ受理相成タル取扱ニ有之是何等ノ理由

ナルヤ若シ此取扱至當ナリトセハ裁判官タル者民刑無
 數ノ裁判悉ク人民ノ爲メ被告セラレ、譯ニ相成大ニ裁
 判權ニ關シ甚容易ナラサル事柄ニ付將來如何心得可然
 哉此段相伺候也(別紙甲乙丙)
 [指令] 十年二月 伺ノ趣裁判上ニ付裁判官ヲ相手取訴出儀
 ハ無之事

但聽訟ノ際裁判官ノ曲壓アルヲ以テ之ヲ相手取リ
 刑事ノ訴ヲ爲スハ此限ニアラス

二月廿六日
 指令

[第七十七] (舊藩々ニ於テ處分濟事件ノ出訴ハ四年十二月
 十九日以前トノミ有之何年以後ヲ指シタル哉ノ伺)
 九年八月七日

宮城上等裁判所

本年七月本省第六十二號御達明治四年十二月十九日前

ニ係ル舊藩々於テ處分濟之事件出訴伺出之儀ニ付テハ
七月十五日附テ以伺書差出置候儀之處右御達文中四年
十二月十九日以前ト有之ハ凡ソ何年以後テ指シタル儀
ニ候哉蓋シ維新爾來版籍奉還以後ト相心得可然乎即今
右等類似ノ事件追々有之候ニ付更ニ此段相伺候前伺書
一同至急御指揮相成度候也

〔指令〕十年二月廿六日 伺之趣ハ明治元年以後同四年十二月以前
處分セシ事件ト心得ヘキ事

〔第七十八〕舊藩々ニ於テ處分濟事件ノ出訴ハ行政司法ノ
別ナク御差圖ヲ要スル哉ノ伺九年八月廿三日

秋田縣

明治九年達第六十二號ヲ以テ明治四年十二月十九日以

前ニ係ル舊藩々於テ處分濟ノ事件ニ付訴出ル節ハ訴狀
ヲ添相伺御差圖可待旨御達有之右ハ行政司法ノ區別ヲ
不問譬ハ彼我人民ノ詞訟舊藩於テ裁決及ヒタルヲ今ニ
至リ不服ヲ唱訴出スル類モ都テ御差圖ヲ要スル儀ニ可
有之歟或ハ彼我人民ノ詞訟舊藩裁判不服ノ訴ハ上等裁
判所へ控訴スヘキ筋歟疑議決兼候間至急御指令相伺候
以上

〔指令〕十年二月廿六日 伺之趣行政司法ノ區別ナク明治元年以後
同四年十二月十九日以前ニ係ルモノニシテ其事理受
理スヘキト認メタルモノニ限ル儀ト心得ヘキ事

〔第七十九〕舊幕府ニテ處分濟ノ事件ヲ出訴スルヲ取扱方
伺九年八月廿九日

三重縣

第十三號 十年二月

本年御省達第六十貳號ヲ以テ舊藩々ニ於テ處分濟ノ事
 件ニ付云々御達相成右ハ舊幕府ニ於テ裁許相成候事件
 ニ付訴出スルモノアルモ同ク御達之趣ニ照依シ御省へ
 伺出御指揮ヲ俟テ可然哉至急御指示被成下度相伺候也
 〔指令〕^{十年二月}廿六日 伺之趣九年當省第六十二號達ノ儀ハ明治
 元年以後同四年十二月十九日以前ニ係ルモノナレハ
 舊幕府ニ於テ處分濟ノ事件ハ之レナキ筈ト心得ヘキ
 事

○第十四號

二月廿八日 指令

〔第八十〕^{代理人ノ民事詞訟ニ疑問ヲ起シ上陳スルニ付伺}

十年 一月

東京府

代理人中山利愛民事詞訟ノ件々別紙ノ通伺出候處右ハ
 一般人民ヨリ可伺出筋ニハ無之哉ニ被相考候得共代
 人職分上ノ伺ニ付其儘進達候條何分ノ御指揮有之度候
 也

〔指令〕^{十年二月}二十八日 各人民ニ對シ法律ノ辨明ハ一切不致候事

別紙

第一條 民事ノ詞訟ハ可成丈ケ一應勸解ヲ請ヘシ云
 々御諭達ニ付テハ右可成丈ケノ三字其含蓄ノ意味明
 解ヲ得難ク例ヘハ至急ヲ要スル事件ニ於テ一應勸解
 ヲ請到底不調ニ付更ニ本訴ノ手續キヲ爲ス時ハ爲メ
 ニ大ニ時機ヲ失ヒ其損害ヲ受ル僅々ナラサルモノア

第十四號 十年二月

リ該件ノ如キハ御論達中可成丈ケノ三字ヲ活用シ直
チニ本訴ヲ爲スモ不苦候乎

第二條 勸解ヲ請ハ必ス本人若クハ至親ニアラサレ
ハ爲ス能ハサルノ御成規ニ候得共本人疾病事故等ニ
テ出頭シ能ハサル時ニ於テ親戚ナキカ又ハ親戚者老
幼疾病或ハ事故アリ若クハ該件頗ル紛紜錯亂ニ涉リ
親戚中代テ之レカ陳述ヲ爲ス者ナキカ如キ本人疾病
平癒事故解ルヲ待テテ勸解ヲ請ント欲スルハ時日遷
延シ爲メニ多少ノ損害ヲ被ル者ナキ能ハス如此場合
ト雖ヒ代言人タルノ名義ヲ以テ勸解代人タルハ爲ス
ヲ得可ラス哉果シテ然ラハ直チニ本訴ヲ爲シテ可然
乎

第三條 例ヘハ被告人大坂府下ニ在リ原告人東京府
下ニ在ル者モ亦民事ノ詞訟ヲ爲サント欲セハ先ツ該
地區裁判所ノ勸解ヲ請ハサルヲ得ス原告人我カ職業
ヲ廢シ遠ク數里外ニ出張シ許多ノ時間ト多少ノ入費
トヲ消耗シ結局勸解相整ヒ其入以テ出テ償ニ足ラス
抑勸解上入費ヲ請求スルノ權利ハ固ヨリ之レナキモ
ノト雖ヒ其損害ノ償ヲ求ルノ權利ハ之アルヘキカ若
シ求ムヘカラサルモノトセハ例ヘハ百圓ノ金ヲ請求
スルニ貳百圓ノ失費ヲ釀スニ至ラン如此モ直チニ本
訴ヲ爲スヲ得ヘカラス候乎

第四條 訴答文例第二十條中裁判役ノ曲庇壓制等ア
ルヲ以テ之ヲ上等ノ裁判所ニ申告スル云々ト有之直

トニ該裁判官ヲ被告トシ申告ヲ爲シ可然乎
 第五條 區裁判所ニ於テ御勸解上原被告人不服ヲ唱
 ヘ不調ノ附箋ヲ請ト雖モ若シ該裁判官ノ聽サ、ル所
 ハ其附箋ナキモ直チニ本訴ヲ爲シ不苦哉又ハ該裁判
 役ノ曲庇壓制トシ上等裁判所エ申告ヲ爲シ可然乎
 第六條 勸解不調ニヨリ附箋ヲ受取ルノ後其出訴期
 限内ニ係ルモノハ數日ヲ經過シ本訴ヲ爲スモ不苦候
 手
 右疑條奉伺候也

第四大區壹小區

小川町廿六番地

平民

明治十年一月八日

中山利愛

東京府權知事楠本正隆殿

〔第八十一〕代官人中山利愛民事詞訟ノ儀ニ疑問ヲ起シ上

陳スルニ付伺
十四日 十年二月

東京府

府下小川町廿六番地免許代官人中山利愛儀別紙伺書差
 出候條則進達致シ候何分ノ御指揮有之度候也

〔指令〕
二十年二月十八日 各人民ニ對シ法律ノ辨明ハ一切不致候事

別紙

本年第十二號御布告預金穀ノ訴訟ハ其證書中封ノ儘
 預リ置候カ或ハ預リ中融通使用ヲ爲サ、ル明文アル
 モノハ年數ニ不拘受理スヘキ成規ニ候處自今二十年

第十四號 十年二月

以前ニ係ルモノハ一切裁判ニ不及ト有之然ハ右明文
 ナシテ利息禮金等申受サル預ケ金穀ハ明治七年第
 二十七號公布ノ御趣意ニ基キ何十年前以前ノモノト雖
 比御受理可相成儀ニ候哉
 前條第十二號御布告預金穀云々自今二十年以前ニ係
 ルモノハ一切裁判ニ不及ト有之右自今ノ字係ル所了
 解ヲ難得例ヘハ今日ヲ去ル二十年以前ニシテ融通使
 用ヲ爲サ、ル明文有之純然タル預ケ金穀ノ證書ト雖
 比此御布告ノ出ル手俄然出訴ノ權理ヲ失フ儀ニ候手
 右ニケ條奉伺候也

第四大區壹小區
 小川町廿六番地

平民

中山利愛

明治十年二月四日

東京府知事楠本正隆殿

〔第八十二〕明治九年當省甲第壹號布達中本人並ニ相手方
 ノ爲ニ延期ヨリ生シタル費用償ヒノ儀伺〔十年二月十七日〕

大審院

第一條 右御達第十二條ニ云ヘル本人ノ爲并ニ相手方
 ノ爲ニ延期ヨリ生シタル費用ヲ償ハシムヘシトアルハ
 本人并ニ相手方ノ請求ニヨリ償ハシムルコト心得可然
 哉又ハ本人并ニ相手方ノ請求ヲ待タスシテ償ハシムル
 コト心得可然哉

第十四號 十年二月

第二條 前條ノ償方ハ明治九年四月廿二日司法省甲第五號御布達訴訟入費償却規則ニ照準シ償却方處分致ス
〜キ者ト心得可然哉又ハ訴訟入費償却規則ニ照準スヘカラサル單行ノ規則ト心得可然哉

右ノ兩條至急御指令被下度此段相伺候也

〔指令〕^{二十年二月二十八日}第一條 相手方ノ請求ナキモノハ償ハシムルニ不及事

第二條 償却處分ノ儀ハ訴訟入費規則ニ據ラスシテ單行スヘキ事

三月二日
指令

〔第八十三〕控訴期限中道路差支ノ有ル時ノ伺^{二十年一月二十三日}

宮城上等裁判所

控訴上告手續中府縣裁判所之裁判言渡ヨリ三ヶ月ヲ過

ルキハ控訴スルヲ許サス云々又上等裁判所ニ至ルノ
距里八里ヨリ遠キキハ期限三ヶ月外八里毎ニ一日ノ猶
豫ヲ増ス云々然シテ途中川支等有之節其事由ヲ届出ル
キハ右日數ヲ算入セス受理致シ來リ候處當上等裁判所
管轄地方ノ如キハ素ヨリ山岳相接シ殊ニ寒地ニシテ嚴
冬ニ至リテハ積雪ノ爲メ行旅ノ絶ユルヲ不少右様ノ場
合ニハ其證據ヲ得テ訴出ルキハ其日數ハ猶豫ヲ與ヘサ
ル可カラス然レトモ法律上一定ノ成文無之上ハ人民ノ
不注意ヨリシテ空シク權理ヲ失フ者モ有之可ク就テハ
洪水積雪等都テノ差支アルキハ町村役場へ申立テ其証
ヲ乞フ可ク町村役場ニ於テハ人民ヨリ申立アレハ水雪
ニ阻セラレタル日數ヲ詳記シタル証書ヲ其乞フ者ニ渡

スヘキ等ノ方法御制定相成度候事
 前條控訴上告トモ八里ヲ以テ一日程トスルニ海路ノ定
 限無之右ハ尋常海路ヲ經ルモ陸路官道ノ里程ヲ以テ計
 算致シ候譯ニ有之處當上等裁判所管內箱館ノ如キハ必
 ス海路ヲ經サレハ青森ニ到ルヲ得ス而シテ通船ノ停
 滯航海中風波ノ難アレハ豫シメ日ヲ限ルヘカラス故ニ
 發船ノ停滯アルニ際スレハ其發船シタル日ヲ記シタル
 證書ヲ得且青森着ノ上ハ又其着船場ノ所役人ニ乞ヒ着
 船ノ日ヲ記シタル證書ヲ得ヘク風波ノ難アル節ハ船主
 ヨリ其景况ヲ記シタル証書並ニ前項發着船場ノ役人ヨ
 リ日ヲ記シタル証書ヲ得ヘキ等ノ手續ヲモ御制定相成
 度候事

右兩條ハ既ニ現在事件中ニモ有之儀ニ付旁建議仕候至
 急御制定有之度候也

〔指令〕十年三月二日建議ノ趣別段布告ヲ要セサル事

但シ積雪難風或ハ出水等ノ爲メニ支エラレ詳細之レ
 ナ届ケ出ルニ於テハ控訴期限ヲ經過スルト雖モ猶豫
 ナ與ヘ受理致ス可キ事

〔第八十四〕民事被告人審理中該被告ヨリ警察官へ吟味願
 ヲ爲シ該官之ヲ糾訊スルヲ裁判權ヲ冒瀆ストシ且
 ツ詞訟審理中呼出ヲ爲スニ他衙門ヨリ同日同時呼
 出シタル儀ノ伺十年二月九日 静岡裁判所

第一條 民事詞訟被告人審理中ノ事件ヲ警察官ニ向ヒ
 吟味願ヲ爲スモノアリ同官其審理中ノ事タルヲ了知シ

ナカラ之ヲ受理シ專ラ糾訊ヲ爲スヲ往々有之右ハ同官ニ於テ審判權ヲ冒瀆スルニ該リ甚不適理ノミナラス自然審判上差支ナキニアラス旁以テ右等ノ儀無之様豫テ警察官へ承認爲致置可然哉

第二條 人民詞訟審理中呼出チ爲ス同日同時又他ノ官衙ヨリモ同様召喚アルコアリ此時ニ當リ法衙ハ人民自由ノ權利ヲ伸張セシメ又ハ國安ヲ保存スルノ要務タルヲ以テ他ノ官衙ノ召喚實ニ片時モ止チ得サルノ場合ヲ除ノ外法衙ヲ先ニシ他ノ官衙ヲ後ニシ可然哉右相伺候也

〔指令〕十年三月三日 第一條 刑事ノ吟味願チナス場合ニ於テハ民事ノ審理ヲ中止スヘシ審判權ヲ冒瀆スル理ハ之レ

無ク候事

第二條 呼出狀到達ノ前後ニ據リ前達ノモノヲ以テ先ニシ候様可相心得候事

〔第八十五〕民事詞訟總テ一度勸解ヲ經由シ度キ伺〔十年二月十五日〕

金澤裁判所

今般當管内各地方エ區裁判所設置右開廳後民事詞訟ハ人民爲便宜總テ一度勸解ヲ經候様管下エ布達仕度依而布達案相添此段奉伺候至急何分ノ御指揮奉仰候也〔指令〕十年三月三日 伺ノ趣難聞届明治九年本省第十七號諭達ノ通可相心得事

布達案

當裁判所管内加賀國金澤越前國福井越中國富山ノ三

ケ所ニ已ニ設置セシ區裁判所ノ外尙又今般加賀國小
 松越前國大野越中國魚津能登國七尾并輪島ノ五ヶ所
 ニ區裁判所設置候ニ付昨明治九年司法省甲第十七號
 ナリテ民事ノ詞訟ハ可成丈ケ一應區裁判所ノ勸解ヲ
 請フヘキ旨諭達モ有之就テハ右區裁判所致開廳候上
 ハ一度モ區裁判所ニ勸解ヲ不請シテ直ニ裁判ヲ請フ
 者ハ時宜ニ依リ受理セサル儀モ有之候條此旨相達候
 事

〔第八十六〕明治十年當省甲第一號布達ヲ明治九年當省甲
 第四號ニ照準シ同〔十年二月十六日〕仙臺裁判所
 本年甲第壹號布達一ヶ月以上ノ期限ヲ定メ雇使スル者
 ハ雇人ヲ以テ論ストハ特ニ刑法ノミニシテ其効民法ニ

及ハサル歟若シ此布達ヲ以テ民法ニ効アリトセハ十ヶ
 月以上不斷雇續ノ者ニ非スト雖ヒ代人タルヲ許シ然ル
 ヘシ然レヒ刑法ニハ脱籍二年以外ニ及ヘハ逃亡ヲ以テ
 論シ民法ニハ三十六ヶ月ヲ經過セサレハ脱籍ト云ハサ
 ル者ト同シシ民刑ノ律法ニ於テ其權衡均一ナラサル儀
 歟右奉伺候也
 〔指令〕〔十年三月二日〕同之趣本年甲第一號布達ハ代人規則ニ關係
 無之候事

○第十五號

三月五日
指令

〔第八十七〕舊藩々ニ於テ處分濟ノ儀同〔九年八月十六日〕

第一條 明治四年十二月十九日以前ニ係ル舊藩々ニ於テ處分濟ノ事件ニ付訴出スルモノ有ルハ先ツ其事由ヲ具申シ御指令ヲ俟ツヘキ云々本年御省第六拾二號ヲ以テ御達之アリ右ハ其事件ノ何タルヲ問ハス全ク舊藩中ニ其ノ處分完結シ了リタルモノニ限り候儀ト相心得可然哉

第二條 前條ノ如クナルハ假令舊藩中ノ取計ヒニ關係シ若クハ舊藩貸下ケ金等ニ屬スルモノト雖モ舊藩中ニ其事ノ處分完結セサルモノハ舊藩ノ處分濟トハ見做シ難キニ付右六拾二號御達ニ係ハラヌ受理スヘキモノハ具申セスモテ裁判シ可然哉

第三條 第一條ノ場合ニ於テハ舊藩中處分濟タルノ明文ハ勿論藩廳ノ印章ヲ押捺シタル如キ確證ヲ具シ訴出スルモノニ限り具申シ御指令ヲ仰キ若シ右ノ如キ確證ナキハ假令區戸長或ハ原告人ニ於テ舊藩中ノ處分濟タルヲ陳述スルト雖モ無論取揚具申セスシテ可然哉

第四條 警ヘハ人民協立セシ仕方會社ノ如キ其解散ニ至リ關係多端ニ涉リタル訴訟ニシテ其内一二舊藩ノ處分濟ニ係ルト雖モ其他ノ數事件ハ舊藩ニ關係セス然ルモ亦一切ノ書類ヲ具シ御指令仰クヘキ義ニ候哉

右之條々心得ノ爲メ豫シメ相伺置度候也

〔指令〕 十年三月五日 第一條乃至第四條伺ノ通

但シ第四條處分濟ニ更ニ關係ナキ書類ハ具スルニ

及ハス

〔第八十八〕身代限糶賣金ヲ官吏受取リ各債主ニ下渡サル
ニ該官吏死去シタル儀ニ付再伺〔十年二月九日〕

愛媛縣

昨九年十二月廿七日ヲ以別紙寫之通相伺本年一月廿七日朱書ノ通御指令〔第六十一號〕相成候處相當ノ處置トノニ
ニ、ハ如何、ヲ可然哉主旨了解致兼處分方因却仕候間下手ノ方法詳細御垂示被下度此段再應相伺候也

〔指令〕十年三月五日伺ノ趣ハ小泉正澄私借ノ姿ニ相成候證據ノ書類モ有之上ハ該相續人ヨリ辨償致サス可ク儀ニ候事

〔第八十九〕民事詞訟件毎ニ一應勸解ヲ受ク可キ義ノ伺〔十年〕

二月廿日

和歌山縣

昨九年御省甲第拾七號ヲ以民事ノ詞訟ハ可成丈ケ一應區裁判所ノ勸解ヲ乞フ可キ旨御諭達相成候然ルニ當縣下區裁判所ノ如キハ和歌山田邊ノ兩所而已ニ有之隨テ其勸解ヲ乞フ者本人又ハ親戚雇人等ヲ出頭可爲致成規ニ付テハ其之ヲ代言人共ニ委任致候儀モ難相成中ニハ原告人共數十里外ヨリ區裁判所所在ノ地ニ罷出滞在等致候付自カテ其費用モ不勘去リ迎結局此費用ヲ曲者ヨリ償却可爲致ノ御成規モ無之彼是困難致候者モ有之趣右ハ素ヨリ御諭達ノ通可成勸解ヲ乞ハシメ候儀ハ萬々敬承致候得共事實困難ノ次第相違無之候ハ、其勸解ヲ不乞、ヲ直ニ出訴致候ヲモ不苦哉ノ旨即今伺出候者モ

第十五號 十年三月

有之候得共右様相成行候テハ自然勸解ヲ要請スル者無
 之場合ニ可立至モ難測然時ハ御省御諭達ノ趣旨ニ相悖
 リ候付何レニモ一應區裁判所ノ勸解ヲ可受旨指令及候
 テ不苦哉此段相伺候條至急何分ノ御指令有之度候也
 〔指令〕十年三月五日 伺之趣ハ難聞届明治九年本省甲第十七號ノ
 諭達ハ必ス勸解ヲ受ク可トノ趣旨ニアラサレハ固ヨ
 リ人民ノ情願ニ任セ不苦候事

〔第九十〕預金等ノ義代言人共ヨリ申出ノ末ニ付伺十年三月五日

和歌山縣

今般太政官第拾貳號ヲ以預リ金穀ノ儀ニ付裁判云々公
 布相成候然ルニ預リ證書中要用入用ニ依リ或ハ何月期
 限迄勘定相立可申等ノ明文有之則其使用融通ヲ公許セ

シモノニシテ封ノ儘預リ置候等純粹ノ預リ金トハ相違
 致候儀ニハ候得共畢竟利子或ハ禮金等不受取筋ニ候得
 ハ二十年以下ノ分ハ則裁判可及儀ニ候哉

質屋職ノ儀ハ他ヨリ物品ヲ預リ相當金額ヲ貸與ヘ十二
 ケ月又ハ九ケ月等ノ期限ヲ定メ右期限中返金候ハ、物
 品可差戻證據トシテ質札ト唱へ小牌ヲ渡シ置キ期限中
 何人ヲ不論此質札持參返金候ハ、物品差戻シ若シ亦右
 期限過去リ候ハ、物品所有ノ權ハ自カラ典舖ニ移ル慣
 習ニテ所謂一種ノ公商ニ有之普通物品質入米穀貸與セ
 シ分トハ稍々其元質ヲ異ニセシ者ニ付自然負債主右期
 限中身代限處分相成所有ノ財產賣拂候節此質札ヲ以同
 様賣拂ニ相成候哉又ハ典舖ヨリ現物品引上ケ外物品ト

同シク賣拂候哉若シ然ラハ身代限揭示中典舖ヨリ訴出
サレハ其嘗テ貸渡候金額ニ於テ先取ノ權利有無如何相
心得可然哉

右兩條當縣居在ノ代言人共ヨリ伺出ノ次第モ有之候條
至急何分ノ御指揮有之度候也

〔指令〕^{十年三月五日}各人民ニ對シテハ法律ノ辨明一切不致候事

三月六日
指令

〔第九十一〕民事詞訟件毎ニ一應勸解ヲ經過シ度伺^{十年二月六日}

静岡裁判所

明治九年本省甲第拾七號ヲ以テ民事ノ詞訟ハ可成丈區
裁判所ノ勸解ヲ經過候様論達アリト雖モ人民動モスレ
ハ直ニ民事裁判ヲ乞フモノアリ今之ヲ處スルニ論達ニ
違フノ故ヲ以テ擯斥スルヲ得ス遂ニ受理審判スルニ到

ル是必竟成法ニ非ス論達ニ止ルヨリ人民區々ノ訴告ヲ
致ス所以ニ到底民事裁判ノ繁雜ヲ免レス自然裁判勸
解ノ區域盡然タラサルヨリ裁判官モ亦時アツテ彼是ノ
權限ヲ混同スルノ弊ナキヲ保タス今若シ之ヲ毎件必
ス一應勸解ヲ經過スヘキモノト成定セラレ一般ニ之ヲ
布達アラハ人民ノ訴告區々ニ出テス隨テ輕便ナル勸解
ニテ其事件ヲ終止スルニ到ルモ亦甚カラサルヘシ又法
術ニ於テモ權限混同ノ患ナク訟庭整肅自カラ事務モ簡
易ニ就クヘキ乎然モ是蓋シ訴訟法ノ原則ニ於テハ或ハ
戻ル所ナキコアラサルヘシト雖モ追テ一定ノ良法施行
セラル、迄ハ寧ロ冀シハ實際官民ノ兩便ニ從ヒ姑ク適
宜ノ假法ヲ設立アラソクテ部見ヲ願ニス謹テ上中致候

也

三月七日
指令
〔指令〕十年三月三日 上申之趣詮議ニ難及候事
〔第九十二〕控訴上告手續箇條中ノ儀伺〔十年〕二月廿二日

大 審 院

第二十三條ニ被告ノ答辨書ヲ受取リシキハ院長ヨリ一人ノ主任ヲ命シ云々トアルハ第二十條第二十一條ノ判事審聽ノキニモ通用シ院長ヨリ一人ノ主任ヲ命シ可然哉

第二十條第二十一條ノ場合上告狀熟閱ノ上上告ノ當不當ナル事理明瞭ナルキハ殊更ニ本人審聽スルニ及ハス受理不受理申渡シ可然哉
右ノ件々相伺候間至急御指令有之度候也

〔指令〕十年三月七日 二條共同之通

○第十六號

三月九日
指令

〔第九十三〕死亡跡相續人期限後レ地券書換科金徴否ノ儀ニ付伺〔十年〕二月廿八日
神 奈 川 縣

管下横濱住吉町平民伊藤彌七死亡跡同人甥鍊藏ヲ養子ニ致シ昨九年三月中家名相續爲致彌七所有地三ヶ所ノ内壹ヶ所ハ鍊藏名前ニ券狀書換出願下渡外二ヶ所ノ地ハ鍊藏養母さくノ抑留スルガ爲メ代替後滿六ヶ月ヲ過キ書換願出候科金徴収ノ儀本月三日付三課第百九拾二號ヲ以內務省ニ相伺候處伺ノ趣地面三ヶ所ノ内壹ヶ所

ノ地券ハ書換相濟貳ケ所ノ地券ハ書換差支候事故有之豫メ其旨趣申出置追テ差支無之場合ニ至リ直チニ書換願出候ハ、規則ノ通証印稅收入書換候儀ト可相心得尤事疑似ニ涉リ候ハ、科金ノ儀ハ司法省エ可伺出旨同月十日指令有之候處抑該件ノ儀ハさく儀彌七生存中ニケ所ノ地所初代彌七並二代彌七ノ實家エ分與致度旨ノ宿志アルヲ遺囑ト相心得鎮藏エ讓渡スヲ拒ムカ爲メ遂ニ滿六ヶ月後ニ至リ券狀書換出願候儀ニ有之凡一家ノ戶主タル者死亡跡地所ノ儀ハ元來其家ニ屬スル不動産ニ付渾テ先戶主ヨリ其相續人へ讓渡ノ遺囑有無ニ不拘該家ヲ繼嗣スル者ノ所有ニ可屬モノニ付母さくニテ之レヲ抑留スヘキ理由無之ト被存候然ラハ昨九年三月中鎮

藏ノ該家ヲ繼嗣セタル日ヨリ同人ノ所有ニ屬スモノト視認シ地券書替可及處定規ニ悖ルモノニ付裁判官エ可付筭ニ候得共鎮藏於テハ親子ノ間さくノ抑留スルヲ豫メ官廳ニ申告難致情アリテ遷延今日ニ至リ書替願出候儀ニテ不得止場合ニ有之候間事情ヲ憫察シ犯則ノ處分不及候テ可然哉此段相伺候也

〔指令〕十年三月九日 不動産ト雖他へ贈遺ノ確證アル時ハ其ノ所有ノ權贈遺ヲ受ル者ニ屬スヘシ若シ其證ナキ時ハ先戶主ヨリ相續人へ讓與ノ遺囑アルヤ否ニ不拘之レチ所有スル權ハ相續シタル日ヨリ既ニ相續人ニ在ル儀ト可相心得事尤モ鎮藏ノ情果シテ憫量ス可キヤ否ハ裁判官ノ糾審ヲ經ルニアラサレハ明確ナラサル儀ニ

三月十三日
指令

付犯則ト見認タル上ハ一應裁判官へ可付事

〔第九十四目安糺ヲ廢シ及証據ニ係ル公布類改正ノ建議〕

十年
二月

神戸裁判所

従前民法裁判上ニ係ル布告及布達ノ中採上裁判ニ及ハ
ス又ハ裁判上ノ証據ニ不相立等ノ條款アリ之ヲ要スル
ニ維新前ヨリ時世ノ變遷ニ因リ或ハ契約粗漏或ハ歲月
徒過等ニテ憑據スル所ヲ失ナヒ其詞訟ヲシテ徒ラニ滋
蔓ナラシムルノ弊害ヲ塞ク所以ニシテ固ヨリ人民ノ心
情ニ出テ、其契約ヲ果スモノヲ禁止スルニハ非サルヘ
シ然ルニ舊來目安糺ナル一例アリ此成例タルヤ人民出
訴スルノ起頭先ツ其証據ノ有無及其請求ノ事件ト相續
セサルヤ否ヲ檢案シ受理不受理ヲ判決スル者ニシテ其原

ト人民ヲ保護スルノ意ニ出ルナリ而シテ現今之カ爲メ反
テ其權利ヲ妨害スルモノアルニ至レリ試ミニ其概例ヲ
舉フニ凡商用ヲ除ノ外人民一般諸證書中實印無キ者ハ
裁判上証據ニ不相立ト有之故ニ出訴スルノ當初裁判官
於テ之ヲ點查シ成法ニ適セサル者ハ事實ノ如何ヲ問ハ
ス被告人ノ答辨ヲ待タス直チニ之ヲ却下シテ受理セス
若シ誤テ之ヲ受クルキハ失錯ノ責ヲ免カレサルナリ聞
ク契約ハ彼我兩意ノ相結フ者ニシテ証書ハ其意ヲ記ス
ルノミ証書ニ依テ契約ノ成ルモノニ非ス躬カラ人ニ對
シ義務ノ未タ解釋セサルアリト口述スレハ証書ニ因ラ
サルトモ信スル者アリ今日審理ノ際自己ノ口述又ハ他
ノ手簡及計算書等實印ナキノミナラス姓名ノ手記

〆モ之レ無キ者ヲ以テ證明シ終ニ解訟事實ヲ得ル者尠
 シトセス然ルニ現今目安糺ナル者アルカ故ニ對審ヲ爲
 セハ或ハ拒防セサルモノト雖モ其成例ニ依テ之ヲ廢毀
 セシムルモノ多々有之恐クハ是裁判ノ本旨ニ悖ラン己
 ニ内外國人交渉ノ訴訟ニ至テハ目安糺ヲ以有証受理不
 受理ヲ判セス直チニ被告者ヲシテ答辨ナサシムルノ一
 例アリ蓋シ萬國普通ノ訴訟法ナラン康毅前日書ヲ閣下
 ニ呈シ凡百ノ訴訟ハ勸解ヲ經由セサレハ裁判セサル云
 々ノ管見ヲ陳述セシニ閣下少シク採ルヘキ者アリトノ
 命アリ己ニ客歲甲第十七號ヲ以テ論達セラレ爾來未タ
 幾旬ナラサルニ勸解ヲ乞フ者日々ニ増加シ實ニ各人民
 躬ヲ飽クコトヲ得而ノ本訴ノ裁判ヲ乞者甚ク夥々タリ且

近來文學漸ク開ケ獨リ代言人等ノ法律ヲ研究スルノミ
 ナラス凡人民モ亦法律ノ大意ヲ知了スルコトニ斜向セリ
 由是視之ハ最早目安糺ノ成例ヲ廢止スルモ決テ害有ル
 コト無カラシ次クニ彼ノ布告布達中ノ件々國法ニ抵觸ス
 ル者ヲ除クノ外總テ被告於テ認メサル上ハ獨立ノ証據
 ト不相成ト改正スルキハ成法ニ干冒セスシテ人民ノ權
 利心情ヲシテ愈伸張遺憾ナカラシメ裁判ノ體裁ニ於テ
 モ亦中外人民一途ニ出ルヲ得ン豈關涉少小ナランヤ康
 毅言詞ノ蕪雜ヲ顧ミス敢テ以テ上陳シ謹テ閣下ノ采封
 ヲ乞フ頓首々々

[指令] 十年三月 建議ノ趣ハ曩ニ其筋へ上申ノ儀有之追テ

何分ノ沙汰及ヘキ事

〔第九十五〕訟獄審理表之儀伺〔十年三月七日〕

東京裁判所

本年丁第十九號御達訟獄審理表届出ノ儀ハ本廳並支廳ニ限リ候事ニテ區裁判所ノ儀ハ勸解事務重モニ取扱候場所ニ付夫レニ不及儀ト相心得可然哉此段相伺候也

〔指令〕〔十年三月十三日〕伺之趣ハ勸解ヲ除クノ外民事刑事ノ裁判ニ屬スヘキ者ハ一般製表ノ儀ト可相心得候事

三月十四日指令

〔第九十六〕他裁判所ヨリ民事裁判執行ノ儀依頼ニ付既ニ

執行スルニ當リテ外ニ公正ノ証書所持スル者之レ

有リ原裁判所ニテ裁許セシ地所書入ノ証書不正ニ

付テノ伺〔十年二月廿二日〕熊谷裁判所

爰ニ証書面ハ明治六年第十八號公布質入書入規則ニ照準シ割印番號並村吏ノ奥印有之ニ付假令ハ他ノ裁判所

於テ右書入地處糶賣ノ裁許相成其裁判執行ノ儀當廳ニ

依頼有之依テ執行セシメムトスル處其地所ハ甲乙兩村

ニ跨涉シタルヲ甲村則負債主居住ノ村吏ト謀リ質入書

入ノ証書ヘ押用スル印章ニ無之事務所ノ仕切判ヲ以テ

右證書ノ天額ニ押捺シ割印帖ニモ登記セサル故乙村分

ハ勿論甲村分ニ於テモ外ニ公正ノ證書ニテ余人ニ書入

相成居リ然ル上ハ公正ノ證書處持スル者ニ先取權利ヲ

與ヘサルヲ得スサスレハ他ノ裁判所ノ裁許ハ法成規律

ニ依リ自ラ破毀スル場合ニ押移スルニ付該件ハ上等裁

判所ニ差出ス可キ哉又ハ証書ノ正不正ニ據リ當廳ニ於

テ處分致シ差岡ニカル儀ニ候哉差掛リ候事件有之候間

至急御指令被下度此段奉伺候也

第十六號 十年三月

〔指令〕十四日三月 伺之趣執行致シ難キ由ヲ記シ原裁判所ニ
通報スヘキ事

三月二日

〔第九十七〕證券界紙へ證書文印刷ノ儀ニ付伺 九年十二月廿七日

岡山縣

証券界紙へ諸証文認方之義僻陋ニ至リテハ自書難致者
間々有之故ヲ以諸証文之大概ヲ印刷緊要之金員或ハ反
別苗字等爲書入レ候テ可然哉之段區戶長ヨリ伺出候モ
有之右ハ聞届不苦候哉爲心得此段相伺候也

〔指令〕十年三月三日 伺之趣證券界紙へ諸証文ヲ印刷スル義ハ聞
届ケ難キ事

但シ一般人民ニ於テ印刷スル義ハ妨ケナキ事

○第十七號

三月十九日
指令

〔第九十八〕本年丁第十九號達審理表調製ノ儀ニ付伺 十年三月九日

松本裁判所

丁第十九號ヲ以テ審理表調製雛形御達有之了承仕候然
ル處續審記入方ニ至リテハ詞訟ノ多寡ニヨリ自然伸縮
モ有之儀ニ付概略區域ヲ定メ記載候テハ如何可有之哉
且主理官壹名壹葉充ニテハ紙員モ相嵩候故別紙雛形（略之）
ノ通調製當裁判所支廳及ヒ區裁判所各自ニ編冊毎月合
セテ進呈仕度此段奉伺候也
追テ續審欄内ハ狹隘ニ候得共三ヶ月以上ニ超越スル
事件ハ僅少ノ筈ニ付別紙ノ通相伺候也

第十七號 十年三月

〔指令〕十九日 伺ノ趣丁第十九號達ノ離形ニ從ヒ之ヲ記載シ續審ノ如キハ該離形ノ凡例ニ云フ所ヲ了解シ表ノ外側ニ記載スヘキ事

三月廿三日指令

〔第九十九〕同上 十五年三月十五日

静岡裁判所

本年丁第十九號ヲ以テ訟獄審理表一ヶ月分翌月十五日迄ニ可届出旨御達相成然ル處丁第廿號ヲ以先般丁第九號民刑事滯件云々ハ丁第十九號ニ御改正ニ相成候ニ付テハ本年一月〜溯リ調整進達可致儀ニ候哉至急仰御指揮候也

〔指令〕十年三月三日 伺ノ趣ハ本年三月ヲ以テ調製ノ元始トシ進達可致事

但シ一月二月分トモ調製出來候得者無論進達可致

事

三月廿四日指令

〔第百〕戸主身代限ノ節同籍ノ隱居若クハ子弟等所有動不動産ノ儀ニ付伺 九年九月一日 新潟裁判所

本省日誌本年第五十八號ノ十五丁ニ御掲載有之昨明治八年第百五十三號御布告ノ儀ニ付生存者ノ相續シタル戸主ニ限り其地所々有ノ權ハ一般地券讓與ノ式ヲ盡サ、レハ戸主ニ於テ之ヲ得可ラサル事ニテハ法律上抵觸云々本省御伺書ノ御指令ニ地券ヲ得タル隱居若クハ子弟ハ各自其地所ヲ所有スルノ權ヲ享受スル者ニシテ設令其戸主身代限ノ處分ニ至ルモ之レニ及フヲ得サル者トストアリ此御指令ノ旨ヲ體認スルニ其原意ハ人民各自所有ノ財産中特ニ地所ノ如キ靜産ノ最重ナル者ニ

シテ且ツ政府ヨリ地券ヲ下付スルヲ以テ所有權ノ區別
他ノ財産ヨリ殊明ナルノ所以ナル歟何レモ人民所有
ノ静産動産中ニ就テ是迄成規ノ身代限財産ノ處分トハ
同シク論スヘカラサルノ理由アル儀ト致愚考候前顯御
指令ノ原意若シ愚考ノ相當ルアラハ從テ今後身代限處
分ニ付左ノ財産ハ如何相心得可然哉

第一條 身代限トナル戸主ノ持主名前ニアラスシテ其
同籍ノ隱居若シクハ子弟ノ持名前ナル各種ノ公債證書
ハ其戸主身代限ノ處分ニ至ルモ之レニ及ハサル乎
第二條 總テノ建造物戸主ノ所有ニアラスシテ其同籍
ノ隱居若シクハ子弟等ノ持名前ノ證據アレハ其戸主身
代限ノ處分ニ至ルモ之レニ及ハサル乎

右相同候間至急仰御指揮候也

〔指令〕十年三月二十四日 第一條 第二條 所有ノ公證アルモノニシ
テ詐偽ノ所業ナキ者ハ伺之通

司法書文庫
第1126號

1126

定價廿八錢

